平成１７年度

県立体育センター研究報告書

保健学習の指導上の課題に関する研究

～小・中・高等学校の９年間を見通した指導を目指して～

（２年継続研究の１年次）

神奈川県立体育センター

指導研究部　研修指導室

目　次

1　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　目　的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3　内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

4　結　果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

5　今後の方向性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

保健学習の指導上の課題に関する研究

～小･中･高等学校の９年間を見通した指導を目指して～

（２年継続研究の１年次）

研修指導室　　久保寺　忠夫･白井　功･落合　浩一
林　ますみ･小野澤　克己･大越　正大
研究アドバイザー　　物部　博文

【テーマ設定の理由】

現在、学校教育における保健学習は、小学校３年生から高校２年生までの９年間行われており、各校種･各学年の授業において、９年間の見通しをもって指導を展開することが求められている。そこで、このことについて、各校種の学校現場の実態に応じた支援をするため、本テーマを設定した。

【目　的】

小･中･高等学校教員の保健学習に対する指導の意識と実態について調査し、各校種における学習指導上の課題を小単元ごとに明らかにすることにより、その課題に対応するとともに、９年間を見通した、今求められている学習指導及び評価の方法等を示した保健学習の指導資料を作成する。

【内容及び方法】

１　研究期間

平成１７年４月１日～平成１９年３月３１日（２年間）

２　研究の手順

（１）保健学習に関する資料収集及び文献研究

ア　今求められる健康教育

イ　健康教育の充実に向けた保健学習の役割

ウ　保健学習の基本的な考え方について

エ　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）の学習内容とその関連について

オ　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）と他教科･科目、総合的な学習の時間との関連

カ　保健学習における指導の工夫

キ　小･中･高等学校の年間指導計画（例）

ク　保健学習の指導と評価の計画

（２）アンケートによる意識･実態調査

ア　調査対象

７教育事務所･２中核市管内小学校２５校、中学校２５校及び県立高等学校３０校における保健学習を担当している教員（抽出校は平成１７年度保健学習研修会参加者名簿を利用）

イ　調査期間　　平成１８年２月８日～２１日

ウ　調査内容

（ア）指導の実態

ａ　各小単元の指導時間

ｂ　各小単元で行っている手法

（イ）指導の意識

ａ　各小単元の指導効果の意識

ｂ　各小単元で、どのような問題点を感じているか

（ウ）その他

ａ　総合的な学習の時間や他教科、学級活動等と関連させて指導している実態
ｂ　その他問題点等

エ　分析の手順

（ア）指導の意識･実態について集計

（イ）上記を平均化し、各小単元ごとに比較して傾向について検討

ａ　指導時数、指導の方法、指導効果、指導上の問題点の分析

（ｂ）系統性ある（小･中･高）小単元における課題の検討（自由記述の内容）

（３）研究のまとめ（研究報告書の作成）及び保健学習資料集の作成

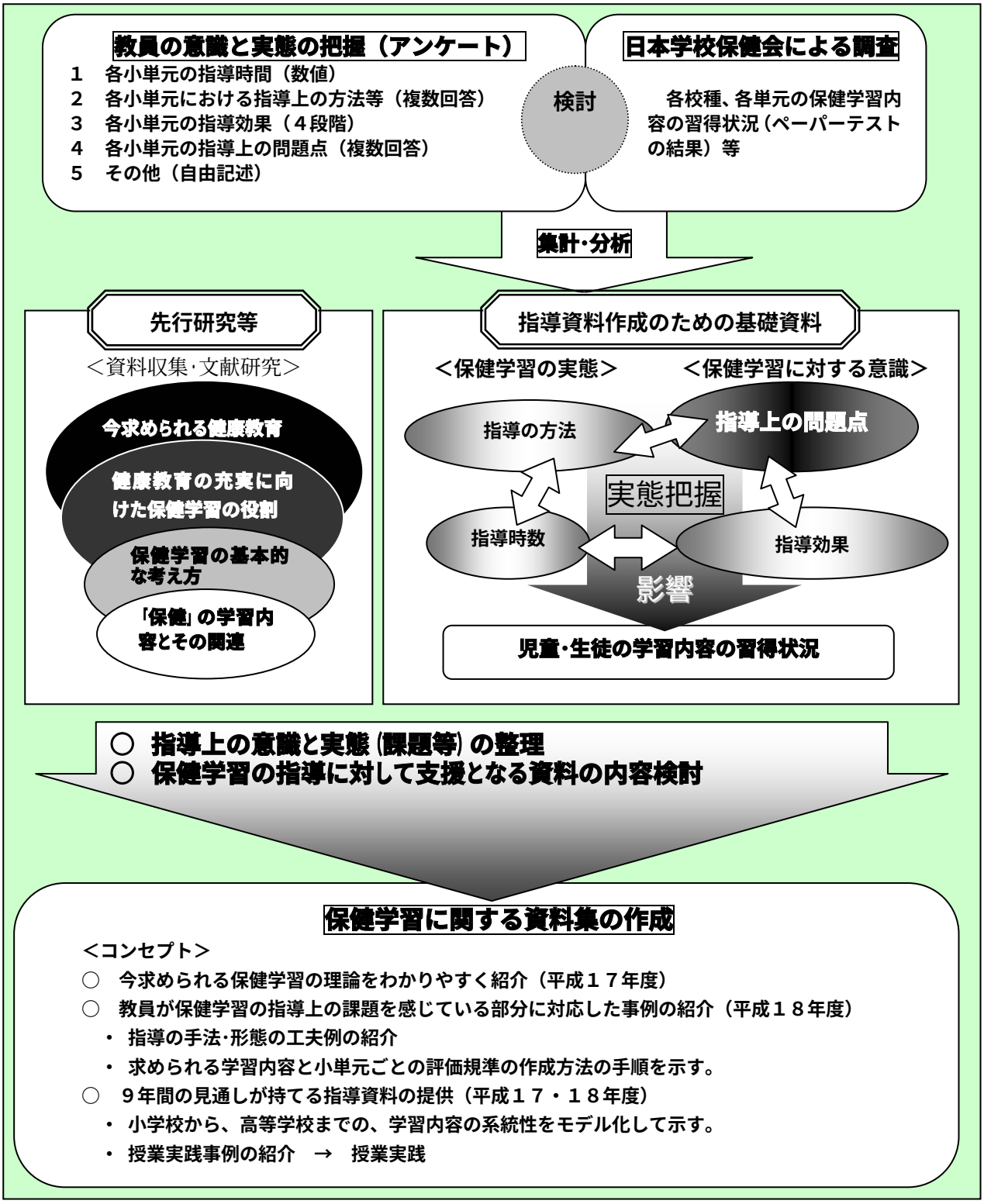


図１　研究構想

3　研究計画

a　平成１７年度

４月	調査研究事業の年間計画の立案･研究領域･内容の検討
５月	第１回研究会議（室による調査研究領域等の検討）
９月	第２回研究会議（具体的な研究内容の検討）
10 月	第３回研究会議（研究アドバイザーについての検討･実態把握、意識調査について）
12 月	第４回研究会議（アンケート調査項目の検討･研究アドバイザーとの協議）
１月	第５回研究会議（実態把握･意識調査に関する説明･アンケート調査依頼）
２月	第６回研究会議（アンケート調査票回収･集計･分析及び理論研究のまとめ）
３月	体育センター調査研究発表会

b　平成１８年度

４月	第１回研究会議（研究の方向性確認･研究資料の内容検討･授業実践の内容･研究協力員の選定）
５月	第２回研究会議（授業実践内容の検討）
６月	第３回研究会議（授業実践内容の検討）
９月	第４回研究会議（授業実践）
10 月	第５回研究会議（授業実践）
11 月	第６回研究会議（授業実践のまとめ）
12 月	第７回研究会議（指導資料･研究報告書の作成）
１月	第８回研究会議（指導資料･研究報告書のまとめ）
２月	第９回研究会議（指導資料･研究報告書の完成、印刷･製本）
３月	体育センター調査研究発表会･指導資料全校配付

4　結果

（1）理論研究のまとめ

ア　今求められる健康教育

近年、経済や科学技術等の発展に伴う社会の変化から、健康をめぐる様々な問題が指摘されている。これらの変化は今後も基本的には変わらないことが予想されることから、国民一人ひとりが、心身の健康問題を意識し、生涯にわたって主体的に心身の健康の保持増進を図っていくことが必要である。心身の健康の保持増進を図るために、次のことが求められている。

○　運動・栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立
○　健康の価値を自らのこととして認識し、自分自身を大切にする態度の確立
○　ストレスが生じた場合の対処法などの生活技術の習得
○　健康問題を意識し、日常の行動に知識を生かして健康問題に対処できる能力や態度（健康の保持増進のために必要なことを実行し、よくないことをやめるという行動変容を実践できる能力を身に付ける）

こうした心身の健康の保持増進を図る上で、健康問題によりよく対処できる能力･態度を身に付け、人間として成長･発達していくためには、人間のもつ潜在的な可能性に働き掛け、より高い価値を備えた人間形成を目指した健康教育･学習が不可欠となる。

このような健康教育･学習により、生涯にわたる心身の健康の保持増進に必要な知識　、能力、態度及び習慣を身に付けることを通じ、たくましく生きる意志と意欲、価値観を形成するなど、［生きる力］を育むとともに、生涯にわたって、活力ある健康的なライフスタイルを築いていくことができると考えられる。[1)]

イ　健康教育の充実に向けた保健学習の役割

学習指導要領総則の「体育･健康に関する指導」では、「生涯を通じて健康･安全で活力ある生活を送る基礎を培う」と示されている。特に、体つくり及び心身の健康に関する指導は、体育科･保健体育科はもとより、教育活動全体で行われることや、家庭や地域社会との連携を図って行われること、日常生活での実践を通して行われることが示されている。[2)]

また、体育科･保健体育科の目標では、調和のとれた人格形成を目指し、教科特性から、「心と体を一体としてとらえ、明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を図ることが求められている。

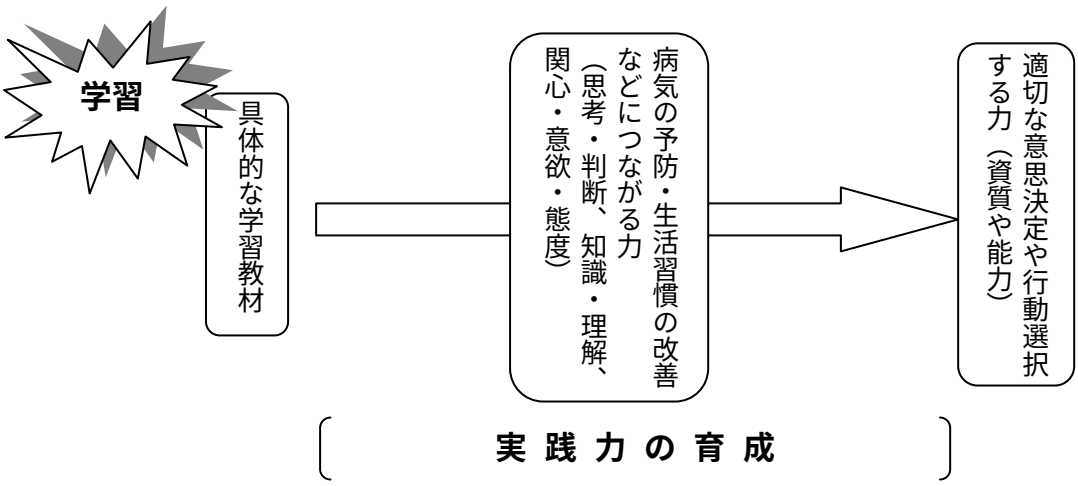
そのため保健学習では、「生涯にわたる健康の保持増進のための基礎づくり」として、健康･安全に関する理解を図りながら健康課題の解決方法を学び、適切な意思決定や行動選択ができる健康の保持増進のための実践力を育成していくことが目指されている。[3)]

これらの内容から、保健学習の役割として、心身の健康の保持増進に関する指導において、「核」あるいは「基礎･基本」として、学校における健康教育の要をなすものと考えられる。[4)]

ウ　保健学習の基本的な考え方

「保健」については、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力（実践力）の基礎を培うため、健康の大切さを認識し、健康的なライフスタイルを確立する観点にたって内容の改善が図られた。これは、保健体育審議会答申で提唱されたヘルスプロモーションの考え方を生かした「健康の増進のための実践力の育成」及び「心身の健康に関する現代的な課題への対応」を受けたものである。[3)]

保健学習の基本的な考え方として、具体的な学習教材を通して学習することによって、病気の予防や生活習慣の改善等につながる思考･判断や知識･理解、また結果として関心･意欲･態度といった学力の向上を図かり、適切な意思決定や行動選択につながる実践力を育成していくことが求められている。[4)]



エ　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）の学習内容とその関連

(ア)　９年間の学習内容[2)]

小 学 校

【第３学年】

「毎日の生活と健康」

◎１日の生活の仕方

（食事･運動･休養･睡眠など）

◎身のまわりの清潔や生活環境

（手足の清潔･明るさ･換気･学校で行われる保健活動など）

【第４学年】

「育ちゆく体とわたし」

◎体の発育・発達と食事、運動などの大切さ

◎思春期の体の変化

（体つきの変化･初経･精通･変声･発毛･異性への関心など）

【第５学年】

「けがの防止」

◎交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止

◎けがの手当て

（すり傷･鼻出血･やけど･打撲などの手当て）

「心の健康」

◎心の発達

◎心と体の密接な関係

◎不安や悩みへの対処

【第６学年】

「病気の予防」

◎病気の起こり方

（病原体･体の抵抗力･生活行動･環境とのかかわりあい）

◎病原体がもとになって起こる病気の予防

◎生活行動がかかわって起こる病気の予防

（喫煙･飲酒･薬物乱用の内容も含む）

中 学 校

【第１学年】

「心身の機能の発達と心の健康」

◎身体機能の発達

◎生殖にかかわる機能の成熟

◎精神機能の発達と自己形成

･ 知的機能、情意機能、社会性の発達

･自己形成

◎欲求やストレスへの対処と心の健康

･欲求やストレスへの対処

･心身の調和と心の健康

【第２学年】

「健康と環境」

◎身体の環境に対する適応能力・至適範囲

･気温の変化と適応能力

･ 温度、湿度、明るさと至適範囲

◎空気や飲料水の衛生的管理

･空気の衛生的管理

･飲料水の衛生的管理

◎生活に伴う廃棄物の衛生的管理

「傷害の防止」

◎自然災害や交通事故などによる傷害の防止

･傷害の発生要因とその防止

･交通事故による傷害の防止

･自然災害による傷害の防止

◎応急手当

･応急手当の意義

･応急手当の方法

（包帯法･止血法･人工呼吸法など）

【第３学年】

「健康な生活と疾病の予防」

◎健康の成り立ちと疾病の発生要因

･健康の成り立ち

･主体と環境要因

◎生活行動・生活習慣と健康

･食生活と健康

･運動と健康

･休養及び睡眠と健康

･ 調和のとれた生活と生活習慣病

◎喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

･喫煙と健康

･飲酒と健康

･薬物乱用と健康

◎感染症の予防

･感染症の原因とその予防

･ エイズ及び性感染症の予防

◎個人の健康と集団の健康

高等学校

『現代社会と健康』

「健康の考え方」

◎国民の健康水準と疾病構造の変化

◎健康の考え方と成り立ち

◎健康にかかわる意思決定と行動選択

◎様々な健康活動や対策

「健康の保持増進と疾病の予防」

◎生活習慣病と日常の生活行動

◎喫煙、飲酒と健康

◎医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康

◎感染症とその予防

「精神の健康」

◎欲求と適応機制

◎心身の相関

◎ストレスへの対処

◎自己実現

「交通安全」

◎交通事故の現状

◎交通社会で必要な資質と責任

◎安全な交通社会づくり

「応急手当」

◎応急手当の意義

◎日常的な応急手当

◎心肺蘇生法

『生涯を通じる健康』

「生涯の各段階における健康」

◎思春期と健康

◎結婚生活と健康

◎加齢と健康

「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用」

◎我が国の保健・医療制度

◎地域の保健・医療機関の活用

『社会生活と健康』

「環境と保健」

◎環境の汚染と健康

◎環境と健康の対策

「環境と食品の保健」

◎環境保健にかかわる活動

◎食品保健にかかわる活動

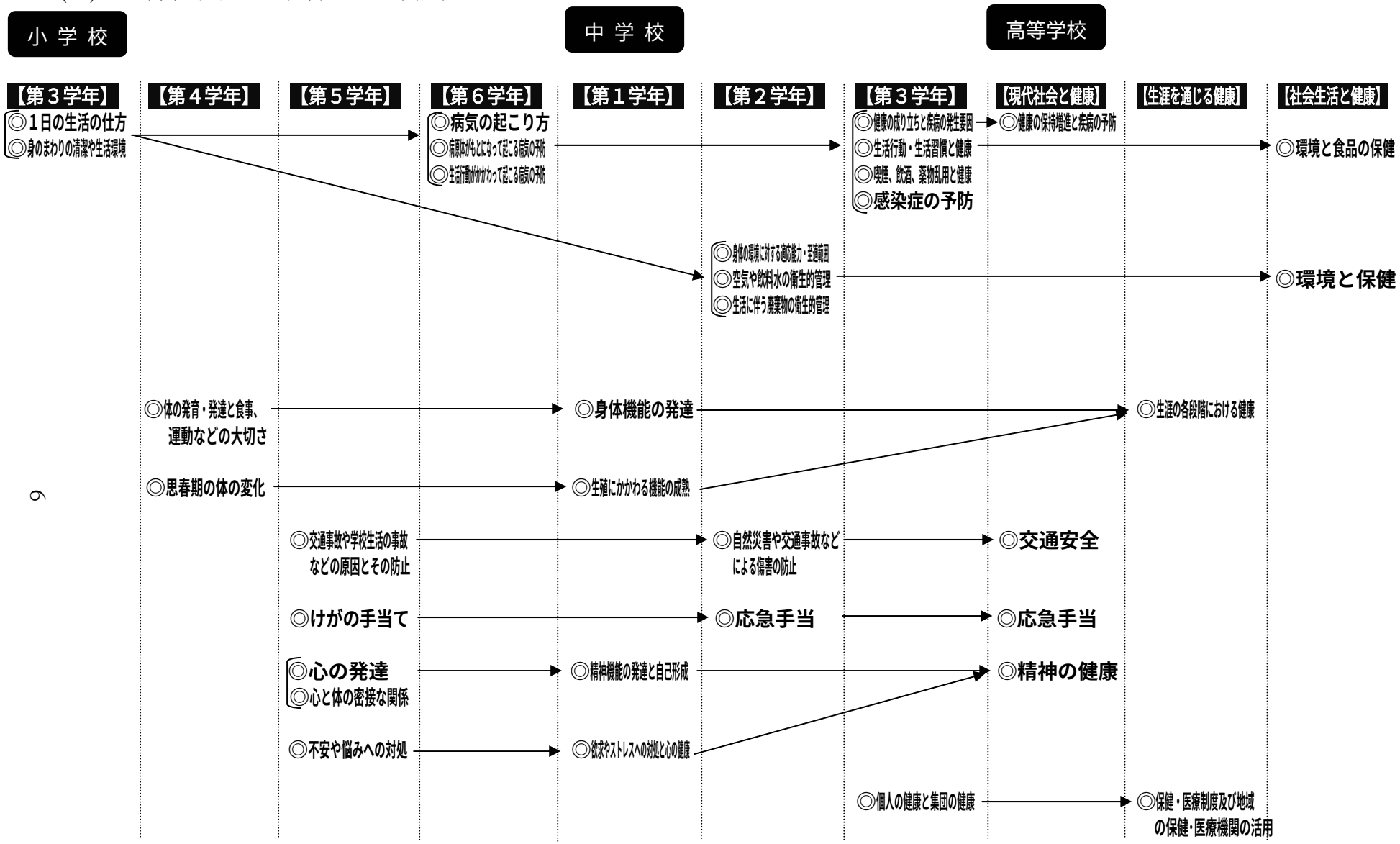
◎健康の保持増進のための環境と食品の保健

「労働と保健」

◎職業病や労働災害と健康

◎働く人の健康の保持増進

（イ）　９年間を見通した小単元ごとの関連図[5)]



オ　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）と他教科･科目、総合的な学習の時間との関連（例）

（ア）　小学校[1)]

学 年	保健学習の単元名	他 教 科	道　　徳	特別活動・総合的学習の時間など
3	**「毎日の生活と健康」**	**生活：**内容（１） 内容（２）	1 (1) 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をする 2 (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する	**学級活動：**(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること **総合：**健康に関する学習活動
4	**「育ちゆく体とわたし」**	**理科：**人の発生と成長（５年生） **生活：**内容（８）	2 (2) 相手のことを思いやり親切にする 3 (2) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする	**学級活動：**(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること **総合：**健康に関する学習活動
5	**「けがの防止」**	**社会：**人々の安全を守る工夫(４年生)	1 (1) 生活を振り返り、節度を守り、節制に心がける	**学校行事：**交通安全教室 **学級活動：**(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
	「心の健康」	**体育：**体ほぐしの運動	2 (2) だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする 2 (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う	**学級活動：**(1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
6	**「病気の予防」**	**家庭：**（１）家庭生活に関心をもって，家庭の仕事や家族との触れ合いができるようにする （４）日常の食事に関心をもって，調和のよい食事のとり方が分かるようにする。	1 (1) 生活を振り返り、節度を守り、節制に心がける 3 (2) 生命がかけがえのないものであることを知り自他の生命を尊重する 4 (3) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める	**学級活動：**(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること （薬物乱用防止教室や外部講師を招くなど）

（イ）　中学校[1)]

学 年	保健学習の単元名	他 教 科	道　　徳	特別活動・総合的学習の時間など
1	**「心身の機能の発達と心の健康」**	**体育：**体ほぐしの運動 **家庭：**A (1) 中学生の栄養と食事 A (2) 食品の選択と日常食の調理の基礎	1 (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 2 (4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する	**学級活動：**(2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること
2	**「健康と環境」**	**家庭：**A (4) 室内環境の整備と住まい方について B (4) 家庭生活と消費について	3 (1) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める	**総合：**環境に関する学習活動

	「傷害の防止」		1 (1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 4 (2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める	**学級活動**：(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること （人工呼吸の実習･外部講師を招くなど）
3	**「健康な生活と疾病の予防」**	**社会(公民的分野)：** (3)ア　人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 **体育：**体つくり運動 体ほぐし･体力の意義と運動の効果 **家庭**：A(1)中学生の栄養と食事 A(2)食品の選択と日常食の調理の基礎	1 (1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 4 (2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める	**総合：**環境に関する学習活動 **学級活動**：(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること （薬物乱用防止教室や外部講師を招くなど）

（ウ）高等学校[1)]

保健学習の単元名	他　教　科	特別活動･総合的学習の時間など
「現代社会と健康」	**倫理**：（1）ア　青年期の課題と自己形成 **家庭基礎**：（2）ア　食生活の管理と健康	**ホームルーム活動**：（2）イ　心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など（薬物乱用防止教室や外部講師を招くなど） **学校行事**：交通安全指導(YRS など)
「生涯を通じる健康」	**現代社会**：（1）現代に生きる私たちの課題 **倫理**：（1）ア　青年期の課題と自己形成 **家庭総合**：（1）人の一生と家族･家庭 （3）高齢者の生活と福祉	**総合**：福祉に関する学習活動 **ホームルーム活動**：（2）イ　心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など
「社会生活と健康」	**現代社会**：（1）現代に生きる私たちの課題 **政治･経済**：（3）現代社会の諸課題 **生活技術**：（4）ウ　食生活の管理 **家庭基礎**：（3）イ　消費行動と環境	**総合**：環境に関する学習活動 **ホームルーム活動**：（3）学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること

カ　保健学習における指導の工夫

保健学習を効果的に進めていくために、次の点に配慮した指導計画を作成する必要がある。[6)]

主体的に学習する過程の重視	児童生徒が受け身となって学習するのではなく、課題意識をもち、教師の支援のもとに主体的に学力をつけ、その学力をもとに新たな課題や意欲をもって学習する過程を重視する。
心と体を一体としてとられた学習指導	心身の調和のとれた発育・発達を目指し、心と体を一体としてとらえた学習指導に務める。 特に、体ほぐしの運動など、健康・安全と運動との関わりについて、実習など体験的な活動をとおして理解を深められるよう、保健と体育の関連を重視した指導を行う。
個に応じた指導の工夫	事前の児童生徒の実態調査や観察及び指導の過程での変化の様子などを把握し、児童生徒一人ひとりの知識、経験、学力能力や意欲、興味・関心など個に応じた指導を工夫し、一人ひとりの良さが生かされるよう支援を行う。
児童生徒の興味・関心、学習意欲を喚起する工夫	家庭科や理科、学級活動等での学習の経験や身近な生活での健康に関する興味・関心などを生かした教材を選択する。また、指導の過程において児童生徒の学習状況に応じて情報を提供したり、疑問や矛盾を提示してさらに深い興味・関心を引き出したりするなどの工夫も重要である。 また、教科書、教材の他に、視聴覚機器や資料、コンピューターや情報ネットワーク等の活用を工夫することも効果的である。
主体的に学び、深い理解に導くための指導方法の工夫	じっくりと考え、進んで試みるなど主体的に活動する機会や場面を数多く取り入れるようにする。児童生徒が主体的に学習するためには、課題を見付けたり、課題の解決に向けて方法を考えたりするための機会や場面を十分に確保することが重要である。そのためには、教材の精選と重点化を進め、単元に教材を盛り込み過ぎないように配慮し、時間に余裕をもたせたり、実験や実習、観察や見学調査など学習の形態を工夫したりする必要がある。その際、実験・実習と学習のねらいの関連では、逸脱や書籍の丸写しというような学習形態をとらないよう配慮することが大切である。
自己評価の推進	保健領域・保健分野・科目「保健」のねらいである思考力や判断力を育て、適切な意思決定や行動選択ができるようにするために重視することは、自己評価できる力を育てることであり、学習カードの活用等を工夫して、教師による評価のみでなく、児童生徒の自己評価等を取り入れた学習を展開する。
単元のまとまりを重視した指導	児童生徒の興味・関心や意欲を持続し、効果的な学習が推進できるように、適切な時期にまとまった指導を行うよう指導計画を立てる。
専門性を有する教職員の参加・協力の推進	健康や栄養等に関する指導の充実を図るため、養護教諭や学校栄養職員などの専門性を有する教職員の参加・協力を推進する。
体育･保健体育以外での体育・健康に関する指導との関連の重視	特別活動の学級活動では健康・安全、学校給食と望ましい食習慣の形成に関する指導、さらに学校行事、総合的な学習の時間などと関連を図った指導を行う。

キ　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）の年間指導計画

（ア）年間指導計画作成上の留意点

- 運動領域と保健領域との密接な関連をもたせて指導するように配慮する必要があること。
- 効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当すること。
- 積極的に実験や実習などを取り入れたり、課題を解決したりしていくような学習を行うなどの指導方法の工夫を行うこと。[2)]

【小学校】

第３学年及び第４学年「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」　８時間程度

第５学年及び第６学年「けがの防止」「心の健康」「病気の予防」　16 時間程度

【中学校】

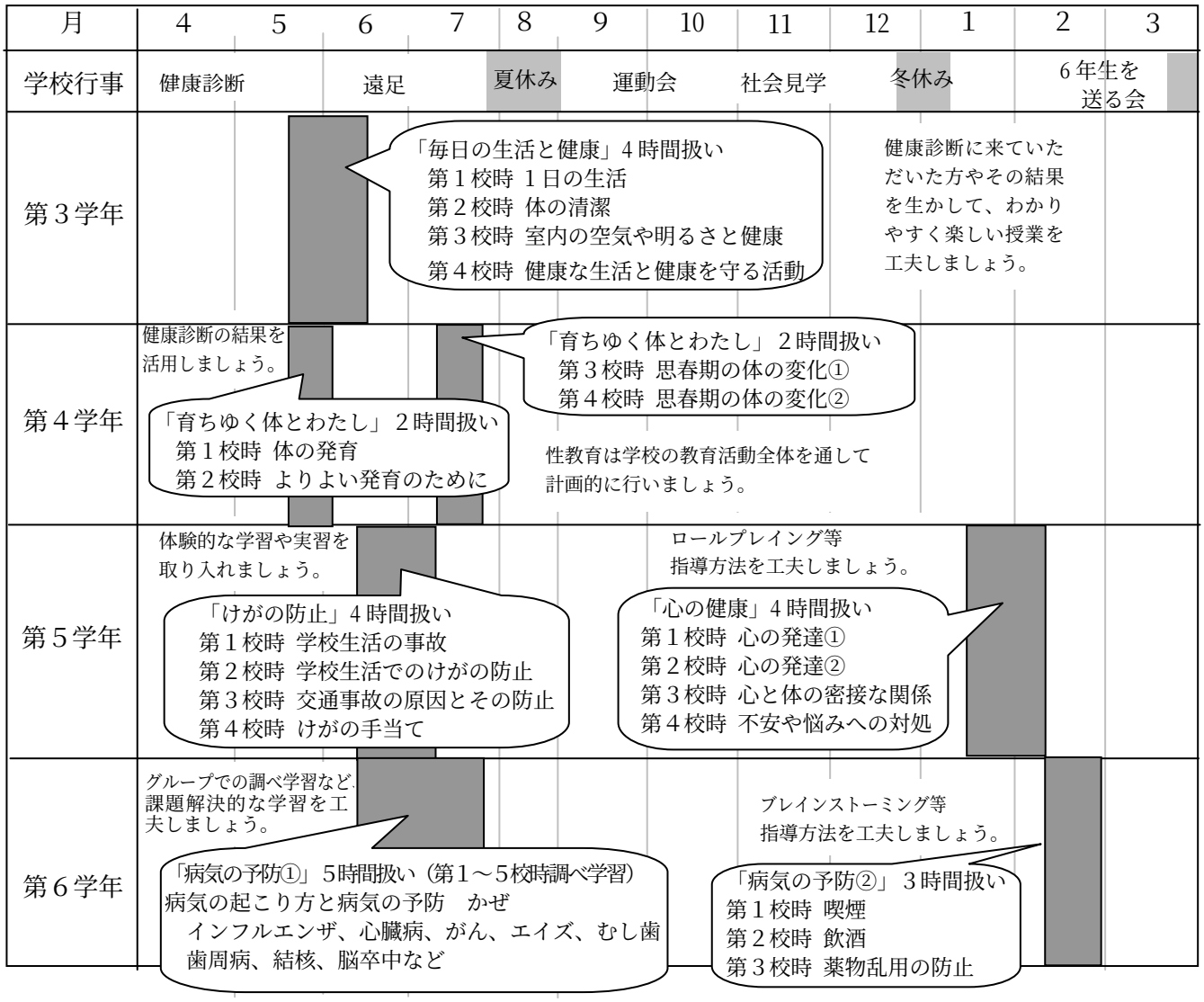
保健分野の授業時数は３学年間で 48 単位時間程度を配当する。

【高等学校】

保健は、原則として入学年次及びその次の年次の２か年にわたり履修させるものとする。

（イ）小･中･高等学校の年間指導計画（例）

ａ　小学校年間指導計画



b　中学校年間指導計画

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事		健康診断	体育大会	修学旅行	試験	夏休み		試験	文化的行事・合唱	試験	冬休み	試験	
授業時間数		前期 18 週　1・2 年週 2 時間、3 年週 3 時間						後期 17 週　1・2 年週 3 時間、3 年週 2 時間					
第1学年	体育分野	体つくり運動 体育に関する知識		陸上競技	水泳	球技・バスケットボール ・サッカー ・バレーボール			器械運動			武道・ダンス	
	保健分野					週３時間の内１時間を保健の授業とする。			「心身の発達と心の健康」１３時間 身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟 精神機能の発達と自己形成				
第2学年	体育分野	体つくり運動 体育に関する知識		陸上競技・器械運動・水泳 １又は２領域選択				球技（２種目を選択して履修）武道及びダンス ２領域を選択して履修					
	保健分野					週３時間の内１時間を保健の授業とする。			「健康と環境」９時間 適応能力・至適範囲 空気飲料水の衛生管理 廃棄物の衛生管理		「傷害の防止」８時間 自然災害・交通事故などによる傷害の防止 応急手当		
第3学年	体育分野	体つくり運動 体育に関する知識		陸上競技・器械運動・水泳 １又は２領域選択				球技（２種目を選択して履修）武道及びダンス ２領域を選択して履修					
	保健分野	「健康な生活と病気の予防」１８時間 健康の成り立ちと疾病の発生要因 生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 感染症の予防、個人の健康と集団の健康						週３時間の内１時間を保健の授業とする。					

C　高等学校年間指導計画

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事		健康診断	体育的行事	試験		夏休み	試験	文化的行事	試験	冬休み	修学旅行	試験 球技大会	
授業時間数		１・２年体育週３時間、保健週１時間、３年体育週２時間											
第1学年	科目体育	体育理論 体つくり運動	器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道又はダンスから３又は４選択 ※武道又はダンスのいずれかを含む										
	科目保健	「現代社会と健康」 ６時間 健康の考え方	１２時間 健康の保持増進と疾病の予防						７時間 精神の健康		１０時間 交通安全、応急手当		
第2学年	科目体育	体育理論	通年で体つくり運動を実施 器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道又はダンスから３又は４選択 ※武道又はダンスのいずれかを含む										
	科目保健	「生涯を通じる健康」 ９時間 生涯の各段階における健康		９時間 保健・医療制度と地域保健 医療機関の活用				「社会生活と健康」１７時間 環境と健康、環境と食品の保健 労働と健康					
第3学年	科目体育	体育理論	通年で体つくり運動を実施 器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道又はダンスから２～４選択 ※武道又はダンスのいずれかを含む										

ク　「保健」（保健領域･保健分野･科目保健）の指導と評価の計画

学習評価には、「児童生徒の学習改善のための資料」「教師の指導改善のための資料」「指導要録への記載したりするのための資料」の役割がある。評価活動を進めるにあたっては、観点別学習状況の評価を進める必要がある。[7)]

（ア）保健領域の評価の観点と趣旨

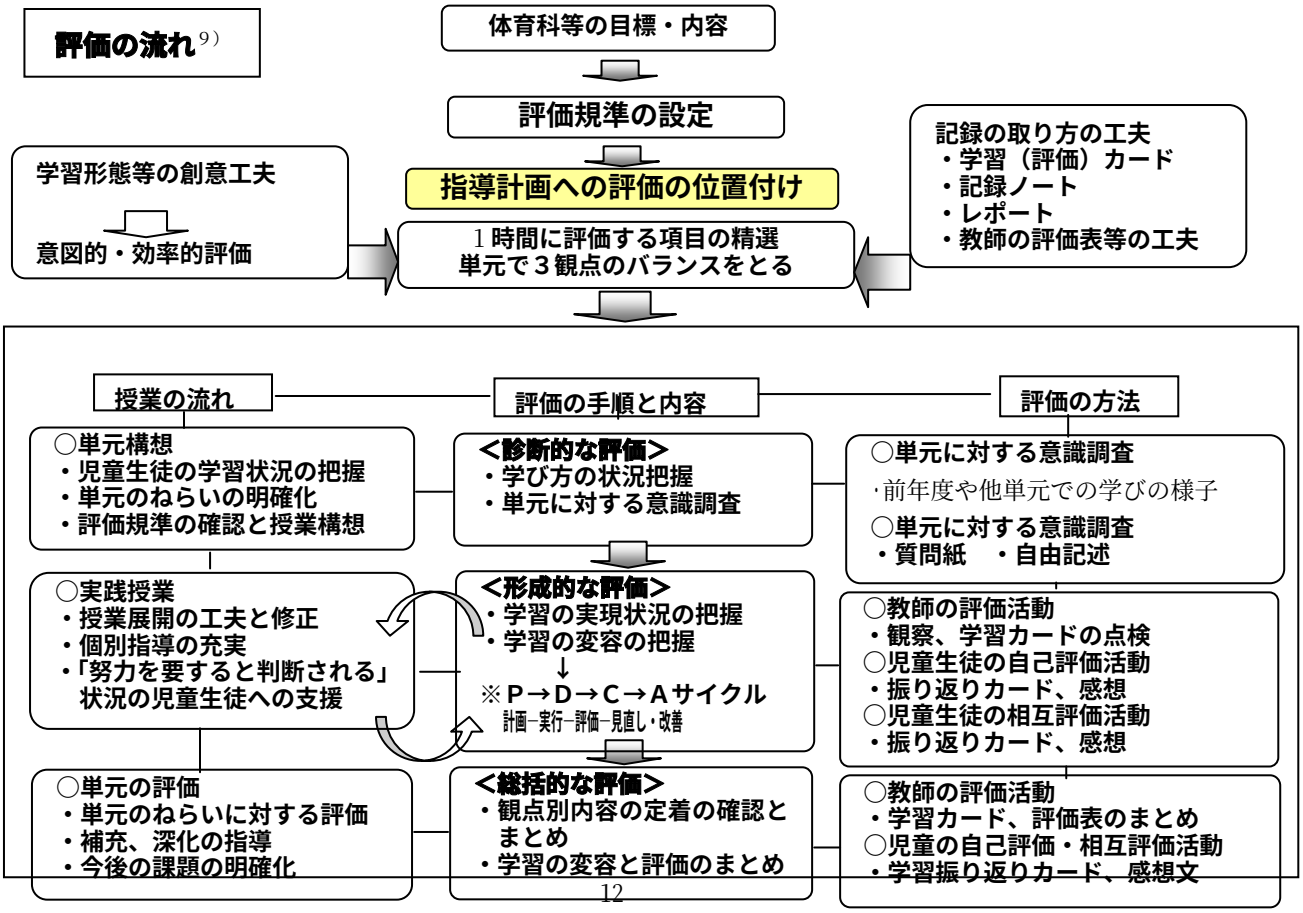
	健康･安全への関心･意欲･態度	健康･安全についての思考･判断	健康･安全についての知識･理解
小学校	身近な生活における健康･安全に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。	身近な生活における健康や安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	身近な生活における健康･安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。
中学校	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全について、課題の解決を目指して科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	自他の心身の健康や安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
高等学校	個人生活や社会生活における健康･安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康･安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活や社会生活における健康･安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

この評価の観点の趣旨に基づき、学習指導要領における内容のまとまりごとに評価規準を作成する。

(イ)　評価の進め方

学習評価を進めるにあたっては、「何を評価するか」とともに、「いつ、誰が、どのように評価するのか」を考えることが大切である。評価を進めるにあたっては、次の点に配慮する必要がある。[8)]

①評価規準及びその具体例の設定 ⇨ 学習目標、内容をもとに、児童の具体的な学習をイメージする。
②具体的な評価規準や方法の設定 ⇨ 評価項目の精選と、３観点のバランスを考え、指導計画に位置付ける。
③評価のための記録の方法を工夫 ⇨ 学習（評価）カード、教師の評価表、レポート等を工夫する。
④意図的かつ効率的な評価の実施 ⇨ 学習の実現状況を把握し、状況に応じて指導の見直しを図る。



(ウ)　指導と評価の一体化

教育活動は、**計画（Plan）→実践（Do）→評価（Check）→改善（Action）という一連の活動を繰り返し**ながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されなければならない。評価の結果から指導を見直し･改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが大切である。[8)]

（2）アンケートによる意識･実態調査の結果と分析

ア　校種ごとのアンケート調査の結果

（ア）小学校における結果

ａ　小学校における指導時数

学年	単　元	小単元	1単位時間	2単位時間	3単位時間	4単位時間
3	毎日の生活と健康	(1)1日の生活の仕方	26%	63%	11%	0%
		(2)身のまわりの清潔や生活環境	32%	59%	9%	0%
4	育ちゆく体とわたし	(3)体の発育･発達と食事、運動などの大切さ	18%	50%	24%	8%
		(4)思春期の体の変化	19%	55%	23%	3%
5	けがの防止	(5)交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止	23%	40%	24%	13%
		(6)けがの手当て	56%	38%	6%	0%
	心の健康	(7)心の発達	71%	25%	4%	0%
		(8)心と体の密接な関係	80%	19%	1%	0%
		(9)不安や悩みへの対処	85%	13%	2%	0%
6	病気の予防	(10)病気の起こり方	48%	33%	14%	5%
		(11)病原体がもとになって起こる病気の予防	31%	56%	11%	2%
		(12)生活行動がかかわって起こる病気の予防	33%	43%	10%	14%

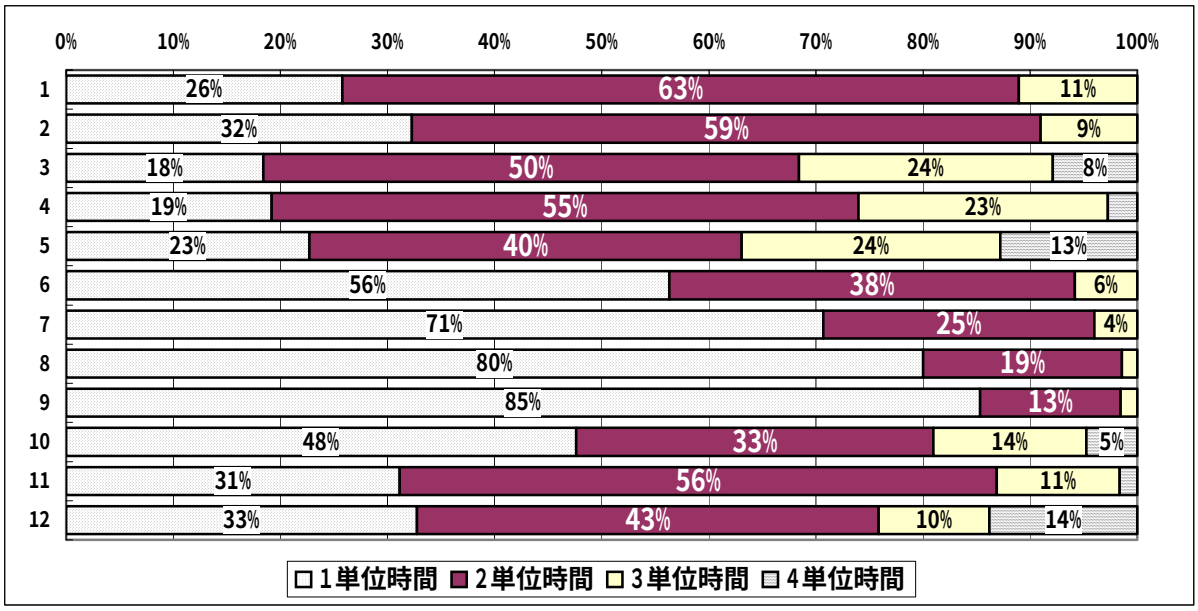


図２　小学校における指導時数

図２は、小学校における保健領域の「指導時数」を小単元の内容ごとに示したのものである。

・　１～２単位時間で指導が行われている小単元が多かった。

・　「(３)体の発育･発達と食事、運動などの大切さ」、「(４)思春期の体の変化」「(５)交通事故や学校生活の事故などの原因とその予防」「(10)病気の起こり方」「(11)病原体がもとになって起こる病気の予防」「(12)生活行動がかかわって起こる病気の予防」は、３～４単位時間で指導が行われている学校もある。

ｂ　小学校における指導方法等

小単元	ブレインストーミング	ロールプレーイング	ディベート	ディスカッション	調査	調べ学習	外部講師	自作プリント	市販ワーク	教科書中心	養護教諭（TT）	その他
(1) １日の生活の仕方	1%	0%	0%	1%	12%	1%	0%	20%	7%	56%	1%	1%
(2) 身のまわりの清潔や生活環境	0%	3%	1%	1%	6%	0%	1%	20%	6%	56%	3%	3%
(3) 体の発育･発達と食事、運動などの大切さ	3%	0%	0%	1%	8%	2%	0%	22%	7%	48%	6%	3%
(4) 思春期の体の変化	2%	0%	0%	0%	4%	1%	1%	17%	10%	43%	18%	4%
(5) 交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止	1%	2%	1%	5%	6%	3%	1%	16%	8%	53%	2%	2%
(6) けがの手当て	0%	2%	0%	5%	4%	3%	0%	18%	10%	49%	6%	3%
(7) 心の発達	1%	3%	1%	7%	1%	2%	1%	17%	8%	55%	3%	1%
(8) 心と体の密接な関係	2%	2%	1%	7%	1%	1%	3%	17%	8%	52%	5%	1%
(9) 不安や悩みへの対処	3%	2%	0%	10%	3%	1%	0%	18%	7%	53%	2%	1%
(10) 病気の起こり方	2%	0%	0%	5%	1%	5%	1%	19%	5%	58%	3%	1%
(11) 病原体がもとになって起こる病気の予防	0%	2%	0%	4%	0%	8%	0%	20%	8%	52%	3%	3%
(12) 生活行動がかかわって起こる病気の予防	0%	2%	3%	4%	4%	4%	7%	16%	4%	48%	4%	4%

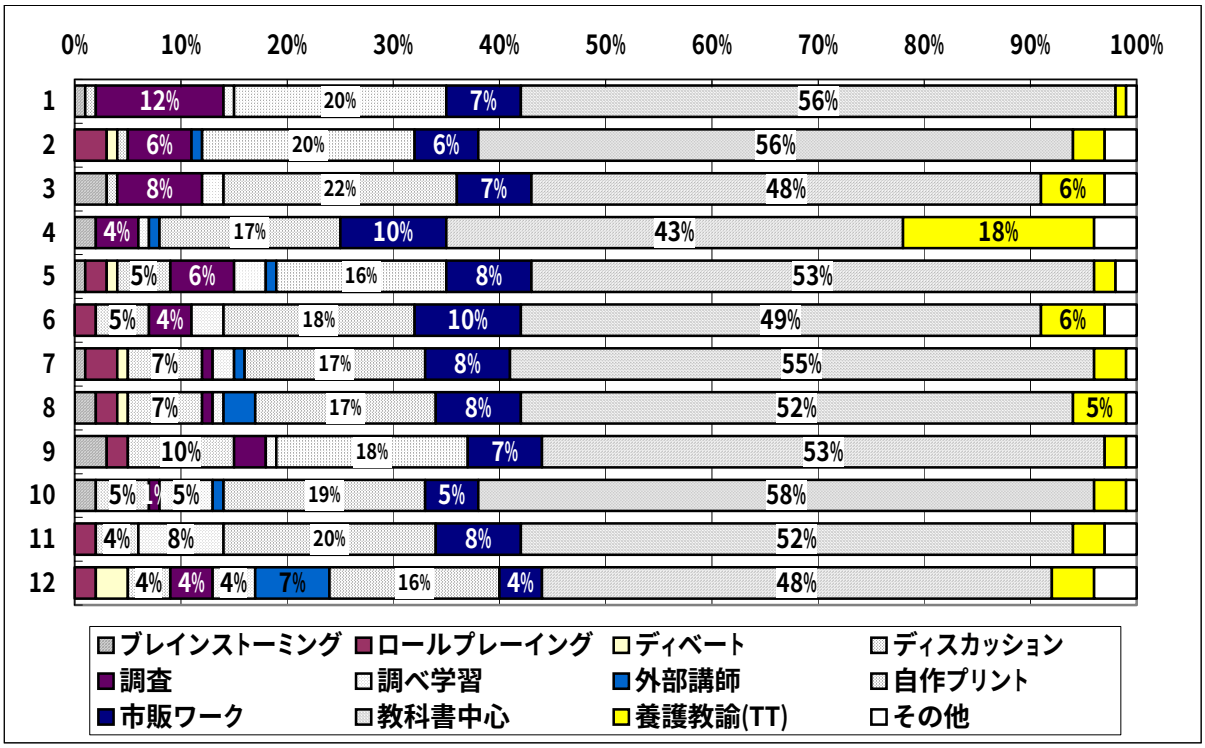


図３　小学校における指導方法等（複数回答）

図３は、小学校における保健領域の「指導方法等」を小単元の内容ごとに示したのものである。

・ 調査は、「(１)１日の生活の仕方」で 12%となっているが他の学年でも使用されている。
・ 全ての学習において、「教科書中心を中心とした講義」が多く、次いで「自作プリント」となっている。
・ ロールプレーイングは、「(２)身のまわりの清潔や生活環境」「(６)けがの手当て」「(７)心の発達」に３%となっている。
・ 養護教諭とのティームティーチングは、「(４)思春期の体の変化」で多く行われ 18%であった。他の学習においても養護教諭とのティームティーチングが行われている。
・ 「(７)心の発達」と「(８)心と体の密接な関係」は全ての手法が使われている。
・ ディスカッションは「(９)不安や悩みへの対処」で 10%となっている。また、５年生の学習内容から用いられている傾向にある。
・ ブレインストーミングは、「(７)心の発達」と「(９)不安や悩みへの対処」で３%となっている。
・ 調べ学習は、「(11)病原体がもとになって起こる病気の予防」で８%となっているが他の学年でも使用されている。
・ ディベートは、「(12)生活行動がかかわって起こる病気の予防」で３%となっている。
・ 外部講師等の活用は、「(12)生活行動がかかわって起こる病気の予防」で７%である。自由記述から「飲酒、喫煙、薬物乱用防止」の内容であることが分かった。

c　小学校における指導効果

小単元	効果がなかった	あまり効果がなかった	やや効果があった	効果があった
(1) 1日の生活の仕方	0%	18%	80%	2%
(2) 身のまわりの清潔や生活環境	0%	5%	91%	4%
(3) 体の発育･発達と食事、運動などの大切さ	0%	5%	78%	17%
(4) 思春期の体の変化	0%	10%	69%	21%
(5) 交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止	0%	13%	79%	8%
(6) けがの手当て	0%	12%	79%	9%
(7) 心の発達	1%	26%	65%	8%
(8) 心と体の密接な関係	0%	18%	76%	6%
(9) 不安や悩みへの対処	3%	28%	63%	6%
(10) 病気の起こり方	0%	8%	80%	12%
(11) 病原体がもとになって起こる病気の予防	0%	8%	79%	13%
(12) 生活行動がかかわって起こる病気の予防	0%	8%	74%	18%

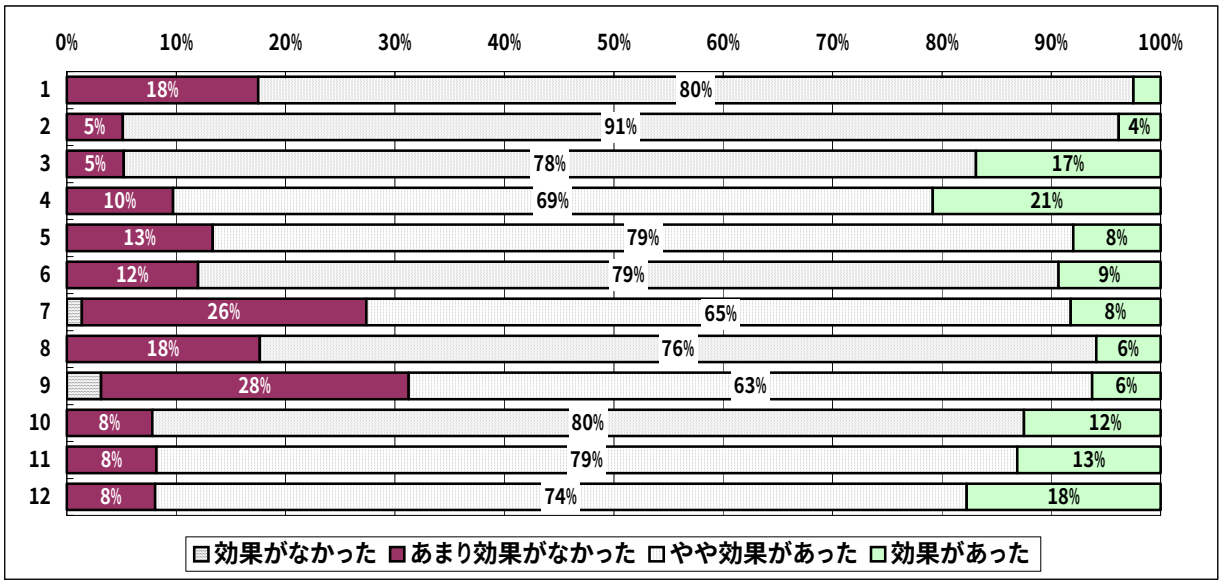


図４　小学校における指導効果

図４は、小学校における保健領域の「指導効果」について４段階評価をし、小単元の内容ごとに示したものである。

・「(９)不安や悩みへの対処」が 31%、「(７)心の発達」が 27%と「あまり効果がなかった」「効果がなかった」と回答をしている割合が高かった。

・「(２)身のまわりの清潔や生活環境」、「(３)思春期の体の変化」が、共に 95%と「効果があった」「やや効果があった」と回答をしている割合が高かった。

d　小学校における指導上の問題点

小単元	興味難	知識定着	実生活	課題を持たせる	教材･教具	時間がかかる	指導法わからない	その他	問題を感じない
(1) 1日の生活の仕方	10%	6%	41%	12%	9%	4%	7%	0%	11%
(2) 身のまわりの清潔や生活環境	9%	10%	34%	12%	17%	3%	7%	0%	9%
(3) 体の発育･発達と食事、運動などの大切さ	8%	12%	32%	12%	13%	7%	7%	0%	11%
(4) 思春期の体の変化	6%	18%	17%	13%	10%	8%	14%	4%	10%
(5) 交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止	10%	17%	31%	9%	12%	4%	10%	0%	9%
(6) けがの手当て	13%	14%	21%	10%	11%	6%	5%	0%	20%
(7) 心の発達	15%	14%	26%	12%	11%	3%	4%	2%	11%
(8) 心と体の密接な関係	14%	13%	25%	14%	14%	5%	3%	2%	9%
(9) 不安や悩みへの対処	12%	13%	27%	13%	18%	3%	3%	0%	13%
(10) 病気の起こり方	12%	15%	23%	17%	9%	7%	7%	0%	9%
(11) 病原体がもとになって起こる病気の予防	15%	18%	24%	13%	5%	8%	8%	0%	9%
(12) 生活行動がかかわって起こる病気の予防	8%	13%	31%	16%	7%	6%	10%	1%	7%

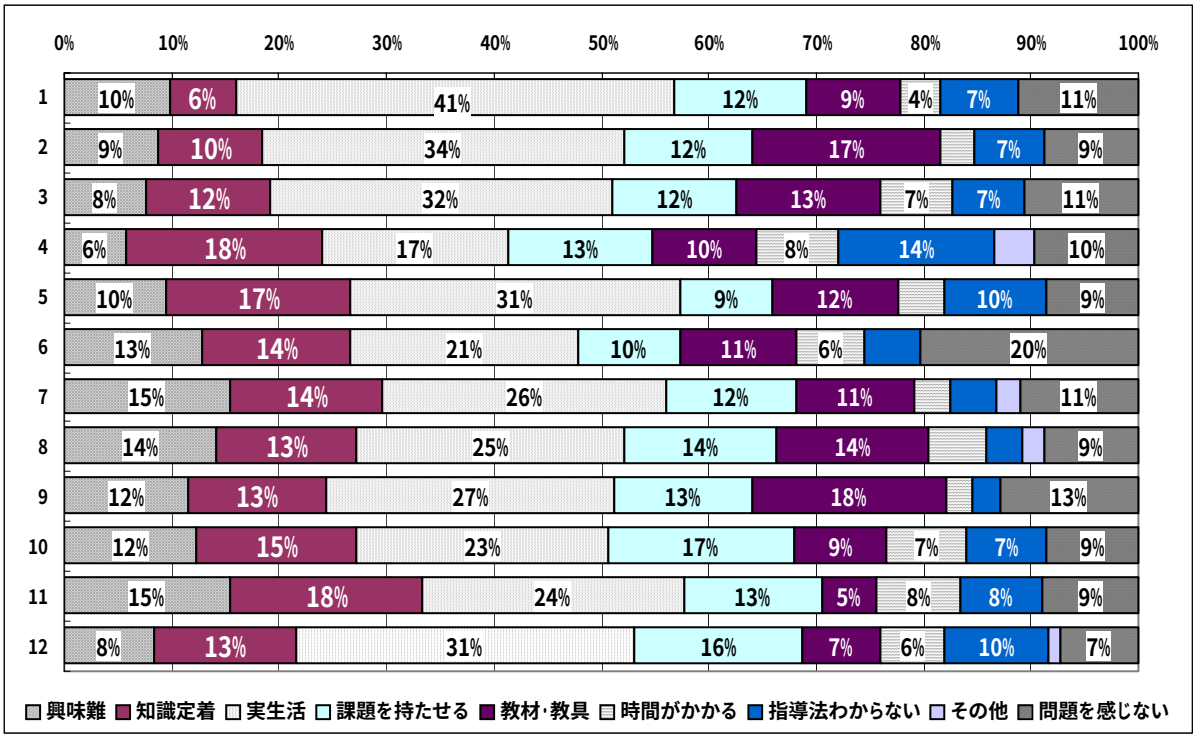


図５　小学校における指導上の問題点（複数回答）

図５は、小学校における保健領域の「指導上の問題点」を、小単元の内容ごとに示したものである。

- どの単元においても「実生活に結びつけるのが難しい」の割合が高く、特に(１)「一日の生活の仕方」では、41%であった。
- 「(４)思春期の体の変化」は、「知識がなかなか定着しない」が 18%となっている。また、指導法が分からないが 14%であった。
- 「(５)交通事故や学校生活の事故防止などの原因とその予防」は、「実生活に結びつけるのが難しい」が 31%、「知識がなかなか定着しない」が 17%であり、他の問題よりも割合が高い。
- 「(６)けがの手当て」は「問題を感じない」が 20%で、他の問題よりも割合が多い。
- 「(７)心の発達」、「(８)心と体の密接な関係」、「(９)不安や悩みへの対処」は、「実生活に結びつけるのが難しい」が 26%･25%･27%で、他の問題よりも割合が高い。
- 「(12)生活行動がかかわって起こる病気の予防」では「内容に合った有効な指導法が分からない」が 10%であった。

（イ）中学校における結果

ａ　中学校における指導時数

単元	小 単 元	1単位時間	2単位時間	3単位時間	4単位時間	5単位時間
心身の機能の発達と心の健康	(1) 身体機能の発達	39%	58%	3%	0%	0%
	(2) 生殖にかかわる機能の成熟	25%	32%	36%	7%	0%
	(3) 知的機能、情意機能、社会性の発達	50%	47%	3%	0%	0%
	(4) 自己形成	73%	23%	4%	0%	0%
	(5) 欲求やストレスへの対処	58%	38%	4%	0%	0%
	(6) 心身の調和と心の健康	82%	18%	0%	0%	0%
健康と環境	(7) 気温の変化と適応能力	91%	3%	6%	0%	0%
	(8) 温度、湿度、明るさと至適範囲	97%	0%	3%	0%	0%
	(9) 空気の衛生的管理	96%	4%	0%	0%	0%
	(10) 飲料水の衛生的管理	92%	4%	4%	0%	0%
	(11) 生活に伴う廃棄物の衛生的管理	47%	23%	17%	13%	0%
傷害の防止	(12) 傷害の発生要因とその防止	94%	6%	0%	0%	0%
	(13) 交通事故による傷害の防止	56%	41%	0%	3%	0%
	(14) 自然災害による傷害の防止	88%	12%	0%	0%	0%
	(15) 応急手当の意義	93%	7%	0%	0%	0%
	(16) 応急手当の方法	26%	41%	22%	11%	0%
健康な生活と疾病の予防	(17) 健康の成り立ち	95%	5%	0%	0%	0%
	(18) 主体と環境要因	100%	0%	0%	0%	0%
	(19) 食生活と健康	90%	10%	0%	0%	0%
	(20) 運動と健康	90%	10%	0%	0%	0%
	(21) 休養及び睡眠と健康	90%	10%	0%	0%	0%
	(22) 調和のとれた生活と生活習慣病	64%	36%	0%	0%	0%
	(23) 喫煙と健康	87%	13%	0%	0%	0%
	(24) 飲酒と健康	83%	17%	0%	0%	0%
	(25) 薬物乱用と健康	70%	22%	4%	0%	4%
	(26) 感染症の原因とその予防	62%	38%	0%	0%	0%
	(27) エイズ及び性感染症の予防	72%	24%	4%	0%	0%
	(28) 個人の健康と集団の健康	88%	12%	0%	0%	0%

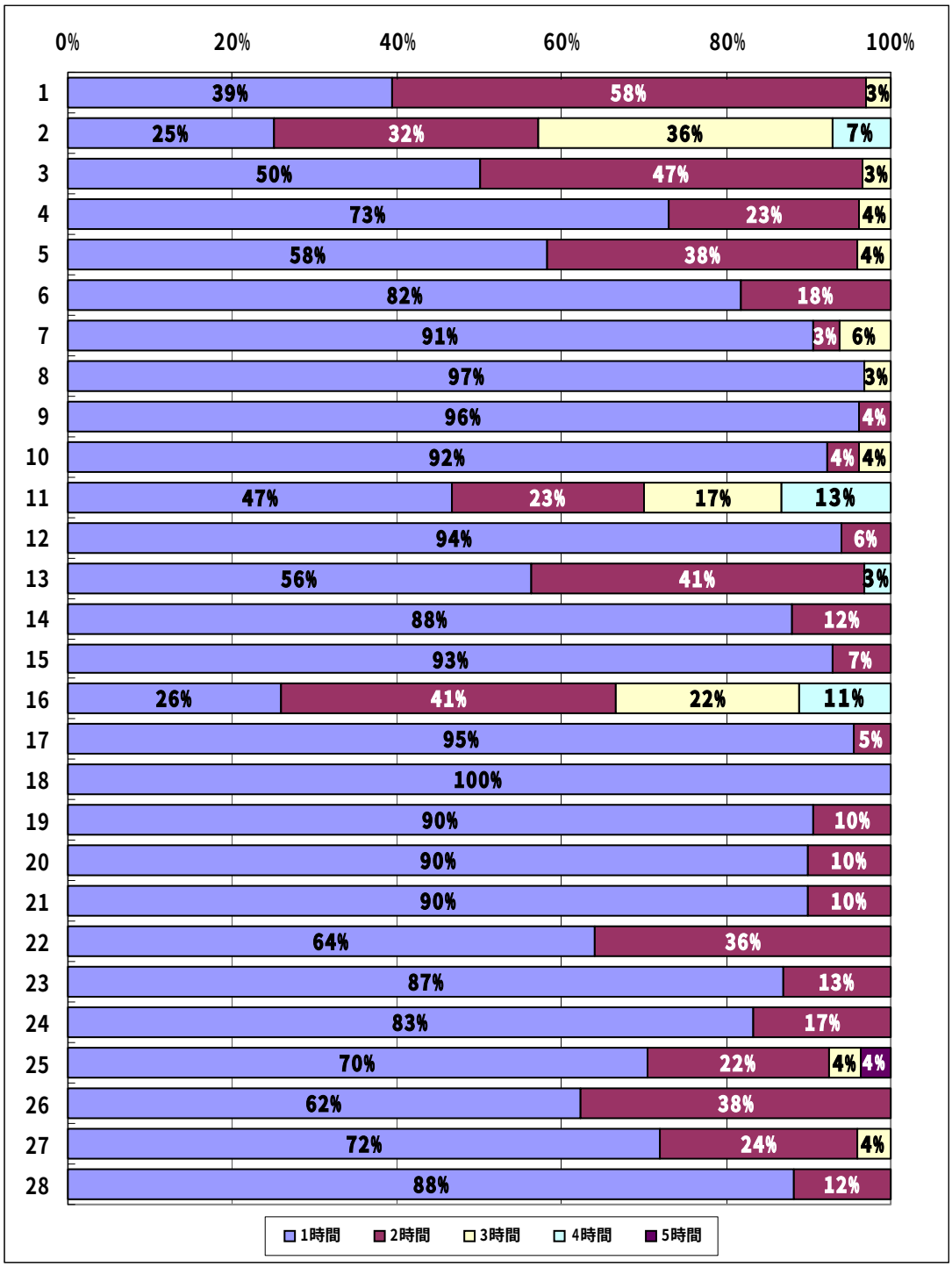


図 6　中学校における指導時数

図6は、中学校における保健分野の「指導時数」を小単元ごとに示したものである。ほとんどの単元の指導時数は１～２単位時間である。

・「(2)生殖にかかわる機能の成 熟」「(11)生活に伴う廃棄物の衛生的管理」「(16)応急手当の方法」については、各学校の指導時数に大きな違いが見られる。

・「(13)交通事故による傷害の防止」「(25)薬物乱用と健康」については、おおよそ１～２単位時間で指導を展開しているが、４～５単位時間の時数を配当している学校も見られる。

b　中学校における指導の方法等

単元	小 単 元	ブレインストーミング	ロールプレーイング	ディベート	ディスカッション	調査	調べ学習	外部講師	自作プリント	市販ワーク	教科書中心	養護教諭（T-T）	その他
心身の機能の発達と心の健康	(1) 身体機能の発達	0%	1%	0%	3%	1%	0%	0%	20%	24%	49%	0%	2%
	(2) 生殖にかかわる機能の成熟	0%	0%	0%	3%	0%	2%	0%	19%	22%	44%	0%	10%
	(3) 知的機能、情意機能、社会性の発達	2%	7%	0%	4%	0%	2%	0%	18%	21%	40%	4%	2%
	(4) 自己形成	0%	2%	0%	8%	0%	0%	0%	18%	27%	43%	0%	2%
	(5) 欲求やストレスへの対処	2%	3%	0%	8%	0%	0%	0%	22%	21%	43%	0%	1%
	(6) 心身の調和と心の健康	0%	4%	0%	2%	0%	0%	0%	18%	22%	54%	0%	0%
健康と環境	(7) 気温の変化と適応能力	1%	0%	0%	3%	0%	3%	0%	21%	27%	43%	0%	1%
	(8) 温度、湿度、明るさと至適範囲	0%	0%	0%	1%	7%	1%	0%	22%	25%	43%	0%	1%
	(9) 空気の衛生的管理	0%	0%	0%	1%	3%	3%	0%	20%	25%	45%	0%	3%
	(10) 飲料水の衛生的管理	0%	0%	1%	4%	3%	4%	0%	19%	24%	43%	0%	2%
	(11) 生活に伴う廃棄物の衛生的管理	0%	0%	0%	3%	0%	8%	0%	18%	21%	41%	0%	9%
傷害の防止	(12) 傷害の発生要因とその防止	0%	1%	0%	3%	0%	3%	0%	21%	24%	48%	0%	0%
	(13) 交通事故による傷害の防止	0%	1%	1%	6%	0%	1%	0%	21%	22%	42%	0%	4%
	(14) 自然災害による傷害の防止	0%	0%	0%	3%	0%	1%	0%	27%	22%	37%	0%	10%
	(15) 応急手当の意義	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	20%	22%	43%	2%	12%
	(16) 応急手当の方法	0%	3%	1%	3%	5%	3%	0%	16%	14%	28%	1%	26%
健康な生活と疾病の予防	(17) 健康の成り立ち	0%	0%	0%	2%	0%	2%	0%	24%	24%	46%	0%	2%
	(18) 主体と環境要因	0%	0%	0%	2%	0%	2%	0%	23%	21%	50%	0%	2%
	(19) 食生活と健康	0%	0%	0%	5%	0%	2%	0%	33%	14%	44%	0%	2%
	(20) 運動と健康	0%	0%	0%	2%	2%	2%	0%	27%	20%	47%	0%	0%
	(21) 休養及び睡眠と健康	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	27%	23%	48%	0%	0%
	(22) 調和のとれた生活と生活習慣病	0%	2%	2%	2%	0%	5%	0%	22%	20%	43%	0%	4%
	(23) 喫煙と健康	0%	0%	0%	2%	3%	3%	0%	18%	14%	37%	2%	21%
	(24) 飲酒と健康	0%	0%	0%	2%	3%	3%	0%	17%	14%	35%	2%	24%
	(25) 薬物乱用と健康	0%	3%	0%	3%	0%	5%	3%	19%	14%	33%	2%	18%
	(26) 感染症の原因とその予防	0%	2%	2%	2%	0%	3%	2%	20%	15%	33%	0%	21%
	(27) エイズ及び性感染症の予防	0%	0%	0%	0%	0%	7%	5%	20%	15%	30%	0%	23%
	(28) 個人の健康と集団の健康	0%	0%	0%	2%	0%	5%	0%	22%	19%	50%	0%	2%

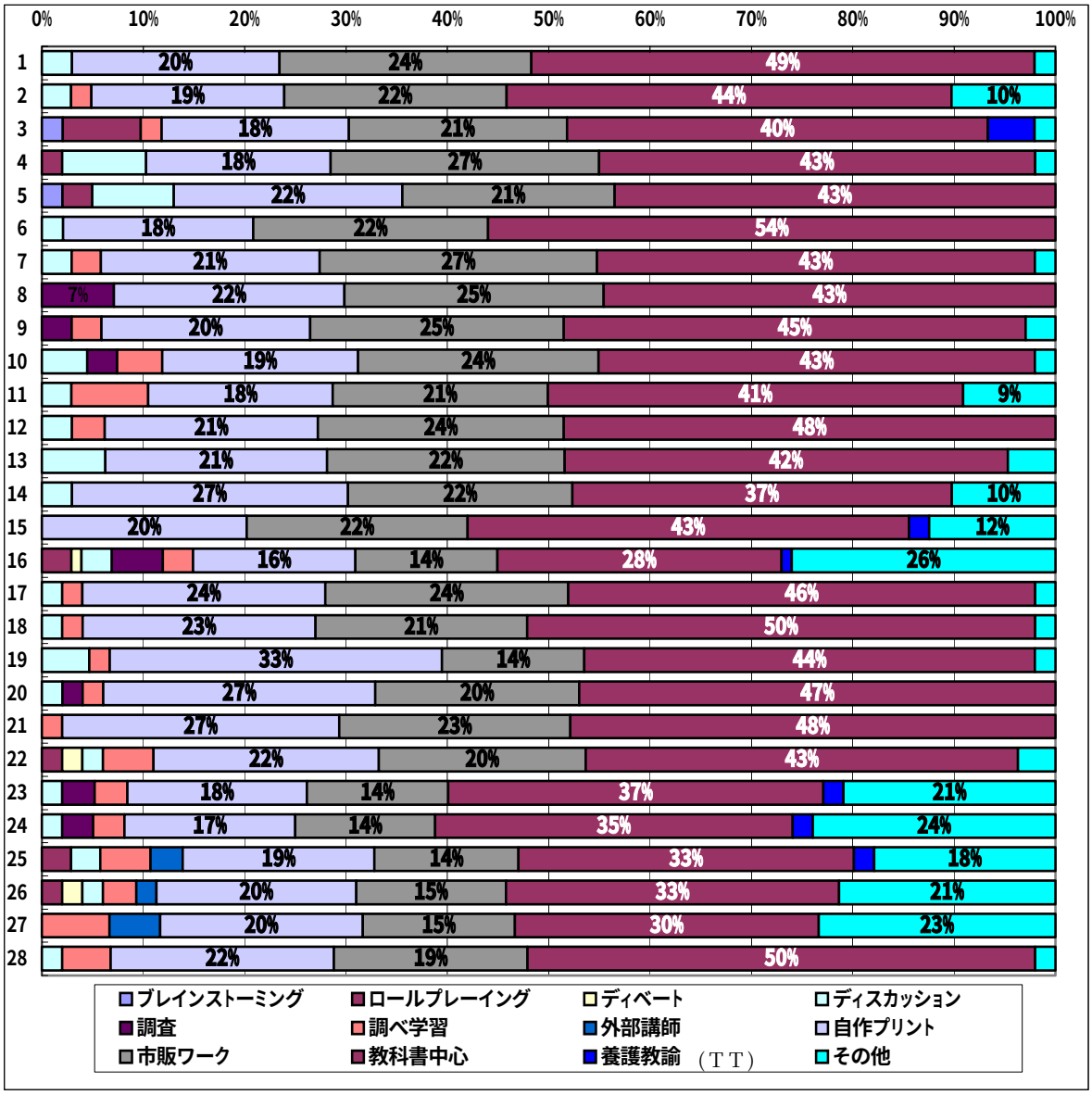


図 7　中学校における指導の方法等(複数回答)

図7は、各小単元における主な「指導の方法等」について示したものである。全ての学習において「教科書を中心とした講義」が多く、次いで「自作プリント･市販ワーク」となっている。

･単元「心身の機能の発達と心の健康」については、ロールプレーイングやディスカッションなど参加型の学習を用いている教員が若干見られる。

･単元「健康と環境」については、教科書･ワーク･プリント以外に、実施調査やインターネットなどによる調べ学習を行っている。

･「(16)応急手当の方法」では、教科書を中心とした講義が少なく、実習を取り入れての指導方法(「その他」)が 26%となっている。

･「(23)喫煙と健康」「(24)飲酒と健康」「(2 5)薬物乱用と健康」「(26)感染症の原因とその予防」については、「教科書を中心とした講義」が 35%前後、「市販のワークブックの使用」「自作プリントの使用」が 35%前後であり、他の単元より数値がやや低い傾向にある。これらの単元では、外部講師や養護教諭による授業や、実験やビデオを活用した学習など、指導の方法に様々な工夫が用いられている。

c　中学校における指導効果

単元	小 単 元	効果ない	あまり効果ない	やや効果あり	効果あり
心身の機能の発達と心の健康	⑴ 身体機能の発達	0%	5%	92%	3%
	⑵ 生殖にかかわる機能の成熟	0%	15%	73%	12%
	⑶ 知的機能、情意機能、社会性の発達	0%	26%	71%	3%
	⑷ 自己形成	0%	34%	59%	7%
	⑸ 欲求やストレスへの対処	0%	10%	77%	13%
	⑹ 心身の調和と心の健康	0%	23%	74%	3%
健康と環境	⑺ 気温の変化と適応能力	0%	10%	87%	3%
	⑻ 温度、湿度、明るさと至適範囲	0%	24%	68%	8%
	⑼ 空気の衛生的管理	0%	16%	81%	3%
	⑽ 飲料水の衛生的管理	0%	17%	80%	3%
	⑾ 生活に伴う廃棄物の衛生的管理	0%	18%	73%	9%
傷害の防止	⑿ 傷害の発生要因とその防止	0%	14%	74%	12%
	⒀ 交通事故による傷害の防止	0%	6%	76%	18%
	⒁ 自然災害による傷害の防止	0%	21%	69%	10%
	⒂ 応急手当の意義	0%	6%	69%	25%
	⒃ 応急手当の方法	0%	3%	56%	41%
健康な生活と疾病の予防	⒄ 健康の成り立ち	0%	24%	72%	4%
	⒅ 主体と環境要因	0%	27%	69%	4%
	⒆ 食生活と健康	4%	16%	68%	12%
	⒇ 運動と健康	4%	20%	64%	12%
	(21) 休養及び睡眠と健康	4%	20%	64%	12%
	(22) 調和のとれた生活と生活習慣病	0%	15%	74%	11%
	(23) 喫煙と健康	0%	0%	68%	32%
	(24) 飲酒と健康	0%	0%	75%	25%
	(25) 薬物乱用と健康	0%	6%	65%	29%
	(26) 感染症の原因とその予防	0%	4%	79%	17%
	(27) エイズ及び性感染症の予防	0%	7%	70%	23%
	(28) 個人の健康と集団の健康	4%	39%	57%	0%

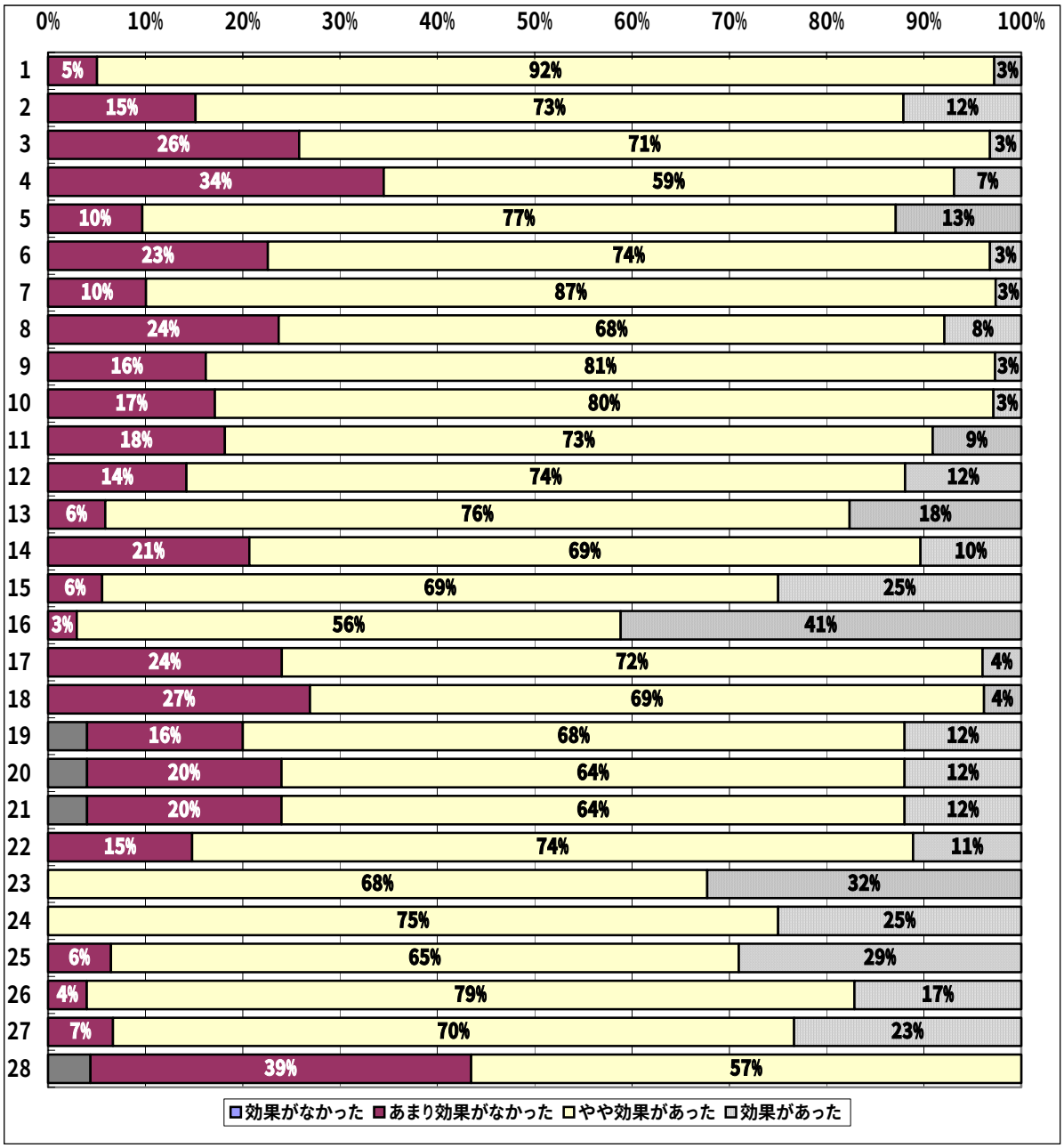


図 8 中学校における指導効果

図8は、実際に指導した結果、効果があったかどうかについての「指導効果」を示したものである。

・「(19)食生活と健康」「(20)運動と健康」「(21)休養及び睡眠と健康」は「効果がなかった」という回答がそれぞれ４％あった。

・「(28)個人 の健康と集団の健康」については、「効果があった」という回答が０％であり、「あまり効果がなかった」「効果がなかった」が 43%となっている。

・「(16)応急手当の方法」については、「効果があった」が 41%でもっとも高く、「やや効果があった」と合わせると 97%である。

・「(23)喫煙と健康」「(24)飲酒と健康」については、「やや効果があった」「効果があった」が 100%となっている。

d　中学校における指導上の問題点

単元	小 単 元	興味難	知識定着	実生活	課題	教材・教具	時間がかかる	指導法わからない	その他	問題感じない
心身の機能の発達と心の健康	(1) 身体機能の発達	13%	22%	18%	11%	2%	0%	4%	0%	30%
	(2) 生殖にかかわる機能の成熟	7%	19%	19%	21%	13%	2%	6%	0%	13%
	(3) 知的機能、情意機能、社会性の発達	19%	24%	19%	15%	6%	0%	4%	0%	13%
	(4) 自己形成	23%	17%	17%	19%	8%	0%	6%	0%	10%
	(5) 欲求やストレスへの対処	8%	18%	18%	16%	8%	3%	5%	0%	24%
	(6) 心身の調和と心の健康	23%	17%	17%	14%	6%	0%	4%	0%	19%
健康と環境	(7) 気温の変化と適応能力	21%	11%	8%	15%	8%	0%	2%	2%	33%
	(8) 温度、湿度、明るさと至適範囲	25%	11%	11%	13%	9%	0%	2%	2%	28%
	(9) 空気の衛生的管理	24%	11%	11%	13%	9%	0%	4%	2%	26%
	(10) 飲料水の衛生的管理	18%	11%	13%	15%	11%	0%	4%	2%	26%
	(11) 生活に伴う廃棄物の衛生的管理	16%	14%	14%	14%	7%	0%	4%	2%	29%
傷害の防止	(12) 傷害の発生要因とその防止	16%	9%	20%	16%	4%	0%	4%	0%	31%
	(13) 交通事故による傷害の防止	20%	14%	16%	11%	5%	0%	0%	0%	34%
	(14) 自然災害による傷害の防止	15%	12%	21%	12%	6%	0%	0%	0%	34%
	(15) 応急手当の意義	5%	14%	17%	5%	3%	6%	0%	0%	50%
	(16) 応急手当の方法	5%	11%	21%	3%	5%	8%	0%	0%	47%
健康な生活と疾病の予防	(17) 健康の成り立ち	29%	13%	7%	16%	6%	0%	0%	0%	29%
	(18) 主体と環境要因	32%	13%	10%	10%	6%	0%	0%	0%	29%
	(19) 食生活と健康	19%	11%	19%	12%	4%	0%	0%	0%	35%
	(20) 運動と健康	24%	14%	14%	14%	3%	0%	0%	0%	31%
	(21) 休養及び睡眠と健康	23%	13%	17%	10%	7%	0%	0%	0%	30%
	(22) 調和のとれた生活と生活習慣病	23%	10%	29%	3%	6%	0%	3%	0%	26%
	(23) 喫煙と健康	7%	7%	14%	10%	7%	7%	3%	7%	38%
	(24) 飲酒と健康	7%	7%	17%	10%	7%	4%	3%	3%	42%
	(25) 薬物乱用と健康	3%	7%	19%	3%	16%	3%	6%	3%	39%
	(26) 感染症の原因とその予防	7%	10%	28%	7%	3%	0%	7%	10%	28%
	(27) エイズ及び性感染症の予防	4%	20%	27%	4%	4%	0%	7%	10%	27%
	(28) 個人の健康と集団の健康	28%	8%	24%	12%	0%	0%	8%	0%	20%

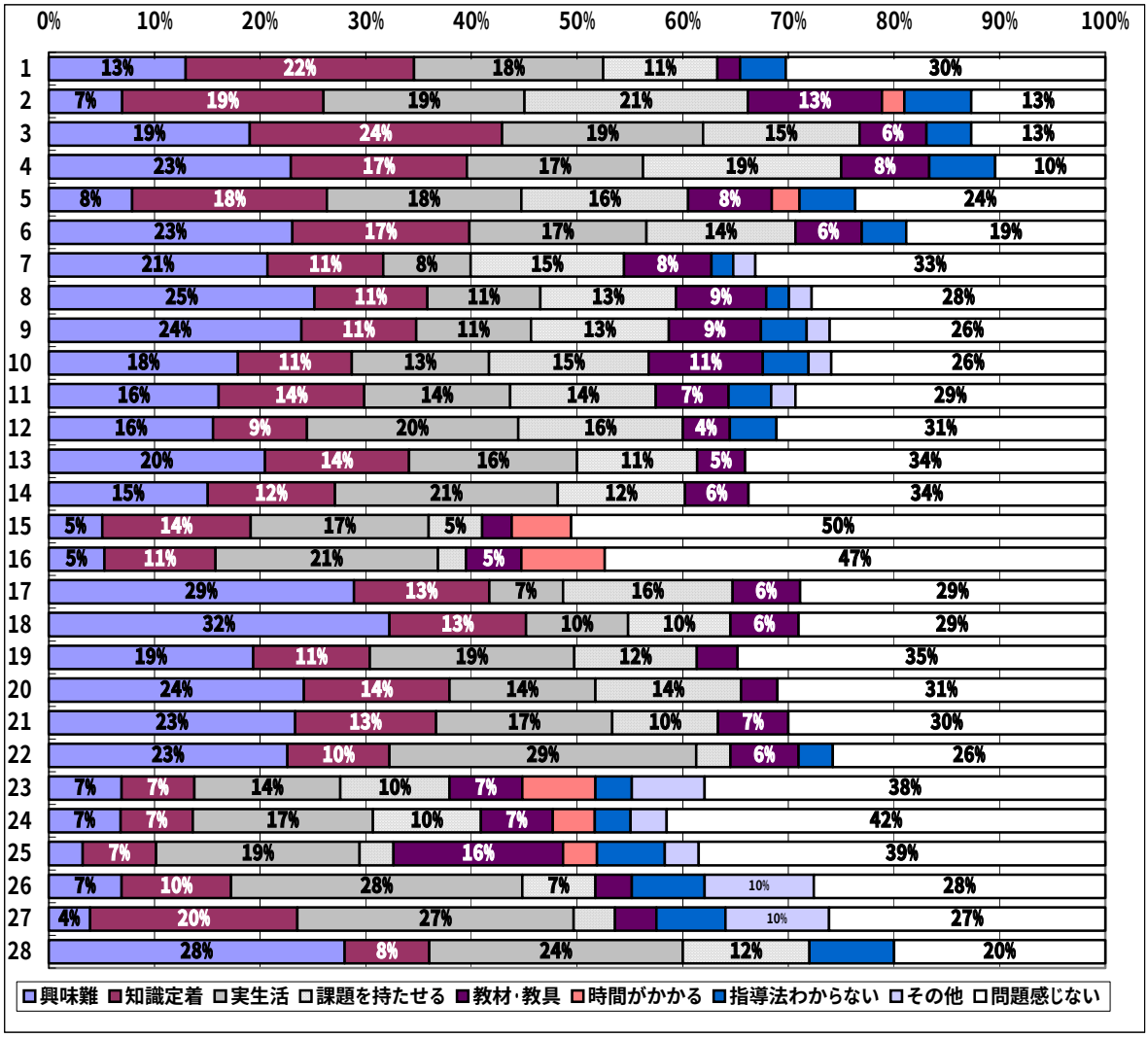


図 9　中学校における指導上の問題点(複数回答)

図9は、小単元における「指導上の問題点」について示したものである。

「問題を感じない」という回答が全体的に多い。問題点としては「興味を持たせるのが難しい」が多い。単元によって問題と感じる内容が異なっている。

- 「(2)生殖にかかわる機能の成熟」「(3)知的機能、情意機能、社会性の発達」「(4)自己形成」「(6)心身の調和と心の健康」「(28)個人の健康と集団の健康」の単元について問題を感じている傾向がある。
- 「(2)生殖にかかわる機能の成熟」は、課題の持たせ方、知識の定着、実生活に結びつけにくい点があげられている。
- 「(3)知的機能、情意機能、社会性の発達」は、「知識がなかなか定着しない」が 24%であり、興味を持たせること、実生活と結びつけることも難しいようである。
- 「(4)自己形成」は、指導上の問題点が一番多くあげられている。特に興味や課題が持たせにくい単元であるという回答が多い。
- 「(6)心身の調和と心の健康」は、興味を持たせること、知識の定着を図ること、実生活と結びつけることが難しいようである。
- 「(28)個人の健康と集団の健康」は、興味を持たせることや実生活に結びつけることが難しいという回答が多い。

（ウ）高等学校

a　高等学校における指導時数

	小単元	1 単位時間	2 単位時間	3 単位時間	4 単位時間	5 単位時間以上
現在社会と健康	⑴ 国民の健康水準と疾病構造の変化	73%	26%	1%	0%	0%
	⑵ 健康の考え方と成り立ち	80%	16%	2%	0%	2%
	⑶ 健康にかかわる意思決定と行動選択	76%	20%	4%	0%	0%
	⑷ 様々な健康活動や対策	85%	14%	1%	0%	0%
	⑸ 生活習慣病と日常の生活行動	47%	45%	4%	0%	4%
	⑹ 喫煙、飲酒と健康	23%	47%	23%	5%	2%
	⑺ 医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康	39%	47%	11%	2%	1%
	⑻ 感染症とその予防	30%	42%	21%	4%	3%
	⑼ 欲求と適応規制	42%	50%	6%	1%	1%
	⑽ 心身の相関	79%	21%	0%	0%	0%
	⑾ ストレスへの対処	80%	17%	3%	0%	0%
	⑿ 自己実現	87%	13%	0%	0%	0%
	⒀ 交通事故の現状	80%	19%	1%	0%	0%
	⒁ 交通社会で必要な資質と責任	89%	11%	0%	0%	0%
	⒂ 安全な交通社会づくり	89%	8%	3%	0%	0%
	⒃ 応急手当の意義	75%	25%	0%	0%	0%
	⒄ 日常的な応急手当	71%	24%	3%	0%	2%
	⒅ 心肺蘇生法	40%	48%	7%	4%	1%
生涯を通じる健康	⒆ 思春期と健康	41%	34%	9%	11%	5%
	⒇ 結婚生活と健康	50%	19%	13%	5%	13%
	(21) 加齢と健康	62%	27%	7%	4%	0%
	(22) 我が国の保健･医療制度	66%	26%	8%	0%	0%
	(23) 地域の保健･医療機関の活用	79%	16%	5%	0%	0%
社会生活と健康	(24) 環境の汚染と健康	36%	9%	37%	14%	4%
	(25) 環境と健康の対策	61%	24%	11%	3%	1%
	(26) 環境保健にかかわる活動	80%	15%	3%	0%	2%
	(27) 食品保健にかかわる活動	72%	25%	1%	0%	2%
	(28) 健康の保持増進のための環境と食品の保健	74%	22%	2%	0%	2%
	(29) 職業病や労働災害と健康	68%	29%	2%	0%	1%
	(30) 働く人の健康の保持増進	75%	23%	0%	0%	2%

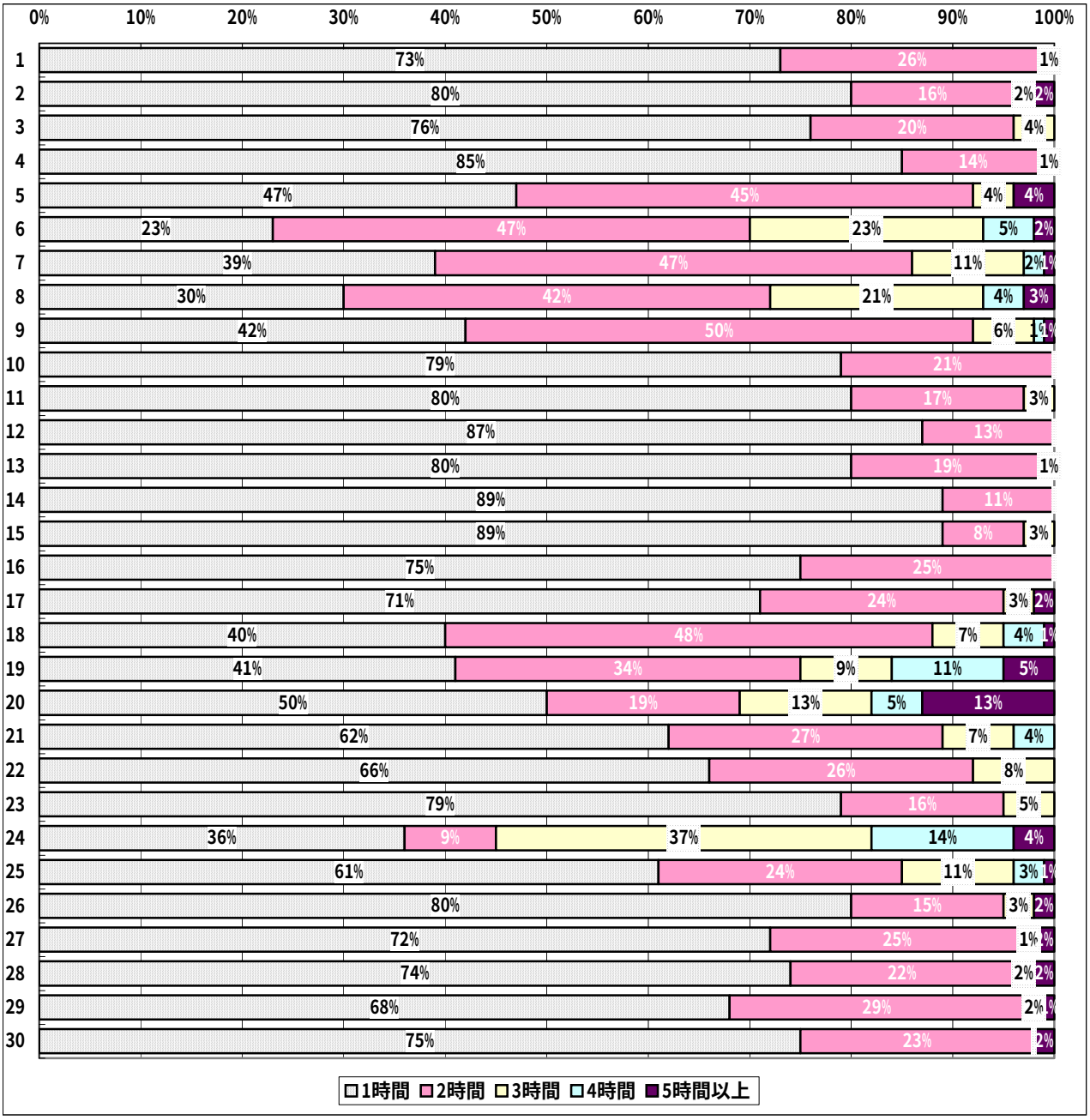


図 10　高等学校における指導時数

図 10 は、高等学校における科目保健の「指導時数」を小単元ごとに示したものである。

- 全般的に、１単位時間から２単位時間で実施している。
- 「（５）生活習慣病と日常の生活行動」、「（６）喫煙、飲酒と健康」、「（７）医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康」、「（８）感染症とその予防」、「（９）欲求と適応規制」、「(18) 心肺蘇生法」、「(19) 思春期と健康」、「(24) 環境の汚染と健康」は、２単位時間以上で実施している。
- 中でも、「(24) 環境の汚染と健康は、３単位時間以上で実施している。

b　高等学校における指導の方法等

	小単元	ブレインストーミング	ロールプレーイング	ディベート	ディスカッション	調査	調べ学習	外部講師	自作プリント	市販ワーク	教科書中心	養護教諭（TT）	その他
現代社会と健康	(1) 国民の健康水準と疾病構造の変化	1%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	24%	19%	54%	0%	0%
	(2) 健康の考え方と成り立ち	1%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	23%	20%	52%	0%	0%
	(3) 健康にかかわる意思決定と行動選択	5%	1%	2%	5%	1%	2%	0%	20%	17%	46%	0%	1%
	(4) 様々な健康活動や対策	1%	0%	0%	1%	0%	4%	0%	25%	19%	49%	0%	1%
	(5) 生活習慣病と日常の生活行動	1%	0%	1%	1%	2%	3%	0%	25%	18%	46%	1%	2%
	(6) 喫煙、飲酒と健康	3%	2%	0%	3%	1%	3%	1%	24%	16%	40%	1%	6%
	(7) 医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康	1%	2%	1%	1%	0%	4%	2%	25%	18%	43%	0%	3%
	(8) 感染症とその予防	1%	0%	0%	2%	1%	5%	1%	28%	16%	39%	0%	7%
	(9) 欲求と適応規制	1%	0%	0%	2%	1%	0%	0%	28%	19%	49%	0%	0%
	(10) 心身の相関	0%	0%	1%	1%	2%	0%	0%	24%	20%	51%	1%	0%
	(11) ストレスへの対処	1%	0%	1%	3%	3%	0%	0%	24%	18%	49%	0%	1%
	(12) 自己実現	1%	0%	0%	3%	3%	0%	0%	23%	17%	51%	1%	1%
	(13) 交通事故の現状	1%	0%	0%	2%	0%	4%	0%	25%	17%	49%	0%	2%
	(14) 交通社会で必要な資質と責任	1%	1%	0%	2%	0%	2%	0%	23%	20%	50%	0%	1%
	(15) 安全な交通社会づくり	1%	0%	1%	1%	1%	1%	2%	22%	19%	51%	0%	1%
	(16) 応急手当の意義	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	28%	19%	46%	0%	6%
	(17) 日常的な応急手当	0%	0%	0%	0%	1%	3%	0%	28%	18%	39%	1%	10%
	(18) 心肺蘇生法	0%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	23%	15%	32%	1%	22%
生涯を通じる健康	(19) 思春期と健康	0%	0%	0%	2%	2%	2%	0%	21%	20%	50%	0%	3%
	(20) 結婚生活と健康	0%	0%	0%	1%	2%	2%	0%	25%	16%	48%	1%	5%
	(21) 加齢と健康	0%	0%	0%	0%	2%	3%	0%	24%	17%	51%	0%	3%
	(22) 我が国の保健・医療制度	0%	0%	0%	0%	1%	2%	0%	25%	18%	53%	0%	1%
	(23) 地域の保健・医療機関の活用	0%	0%	0%	1%	0%	1%	0%	24%	19%	54%	0%	1%
労働と保健	(24) 環境の汚染と健康	1%	0%	1%	1%	1%	6%	0%	24%	16%	46%	0%	4%
	(25) 環境と健康の対策	0%	1%	1%	1%	2%	7%	0%	24%	18%	44%	0%	2%
	(26) 環境保健にかかわる活動	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	25%	20%	49%	0%	2%
	(27) 食品保健にかかわる活動	0%	0%	0%	0%	1%	5%	0%	23%	20%	51%	0%	0%
	(28) 健康の保持増進のための環境と食品の保健	1%	1%	1%	0%	0%	5%	0%	22%	21%	49%	0%	0%
	(29) 職業病や労働災害と健康	0%	1%	1%	0%	1%	5%	0%	23%	20%	49%	0%	0%
	(30) 働く人の健康の保持増進	0%	2%	2%	0%	1%	2%	0%	18%	23%	51%	0%	1%

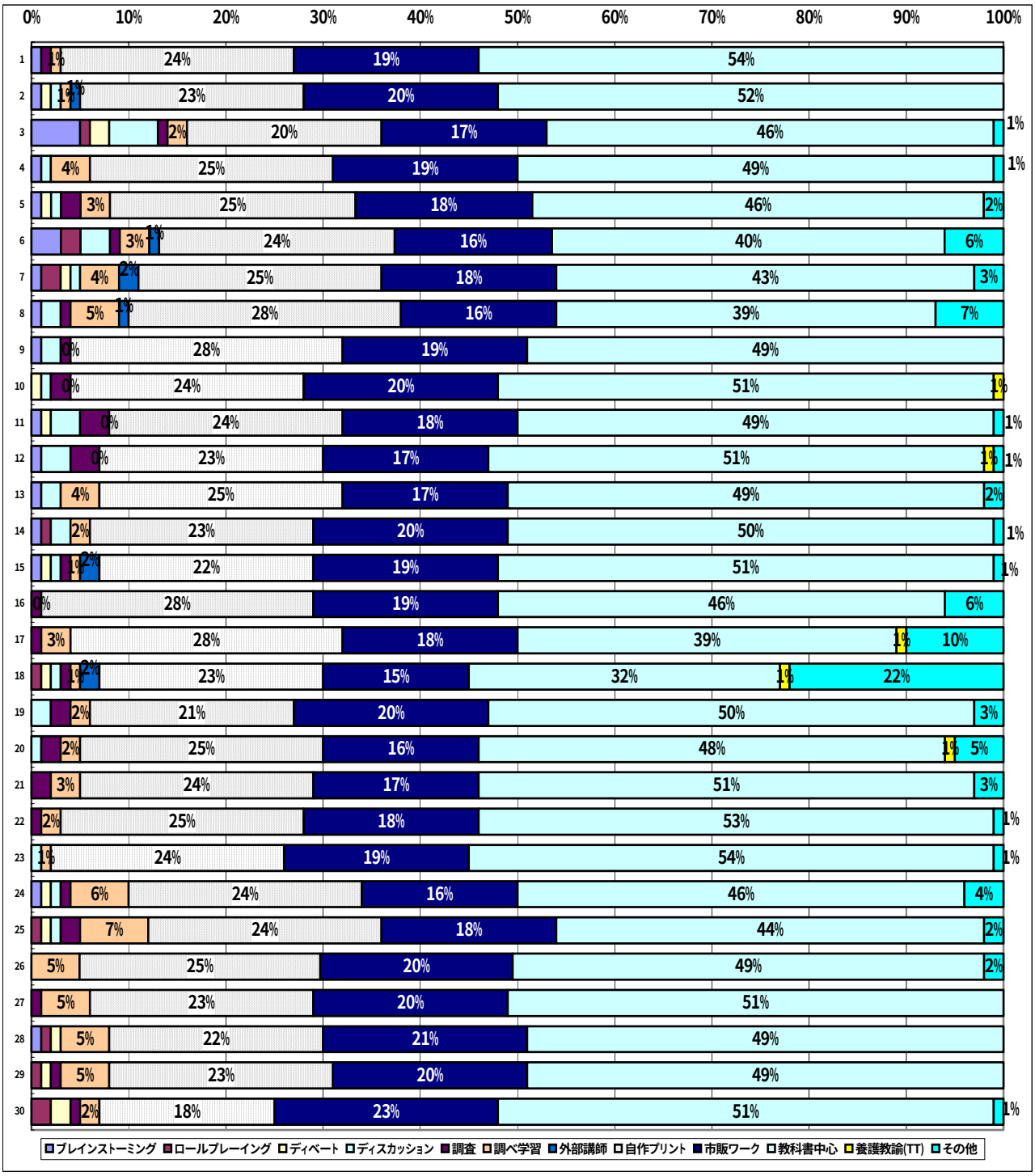


図 11　高等学校における指導の方法等（複数回答）

図 11 は、「指導の方法等」を小単元ごとに示したものである。

- 全ての項目において「教科書を中心とした講義」が多く、次いで「自作プリント」「市販ワークブック」となっている。
- 「（３）健康にかかわる意思決定と行動選択」、「（６）喫煙、飲酒と健康」、「（８）感染症とその予防」、「(18）心肺蘇生法」では、若干ではあるが様々な指導方法が用いられている。

c　高等学校における指導効果

	小単元	効果がなかった	あまり効果がなかった	やや効果があった	効果があった
現代社会と健康	(1) 国民の健康水準と疾病構造の変化	0%	11%	85%	4%
	(2) 健康の考え方と成り立ち	0%	21%	75%	4%
	(3) 健康にかかわる意思決定と行動選択	0%	34%	61%	5%
	(4) 様々な保健活動や対策	1%	39%	59%	1%
	(5) 生活習慣病と日常の生活行動	0%	10%	80%	10%
	(6) 喫煙、飲酒と健康	1%	5%	68%	26%
	(7) 医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康	0%	14%	70%	16%
	(8) 感染症とその予防	0%	10%	73%	17%
	(9) 欲求と適応規制	0%	17%	70%	13%
	(10) 心身の相関	1%	30%	63%	6%
	(11) ストレスへの対処	2%	28%	62%	8%
	(12) 自己実現	4%	42%	47%	7%
	(13) 交通事故の現状	2%	14%	70%	14%
	(14) 交通社会で必要な資質と責任	2%	23%	70%	5%
	(15) 安全な交通社会づくり	1%	30%	61%	8%
	(16) 応急手当の意義	1%	10%	73%	16%
	(17) 日常的な応急手当	0%	9%	75%	16%
	(18) 心肺蘇生法	0%	13%	61%	26%
生涯を通じる健康	(19) 思春期と健康	1%	11%	81%	7%
	(20) 結婚生活と健康	1%	19%	70%	10%
	(21) 加齢と健康	1%	29%	66%	4%
	(22) 我が国の保健・医療制度	3%	40%	56%	1%
	(23) 地域の保健・医療機関の活用	3%	42%	54%	1%
労働と保健	(24) 環境の汚染と健康	1%	20%	70%	9%
	(25) 環境と健康の対策	1%	32%	61%	6%
	(26) 環境保健にかかわる活動	2%	31%	64%	3%
	(27) 食品保健にかかわる活動	2%	25%	68%	5%
	(28) 健康の保持増進のための環境と食品の保健	2%	31%	64%	3%
	(29) 職業病や労働災害と健康	2%	27%	64%	7%
	(30) 働く人の健康の保持増進	2%	36%	56%	6%

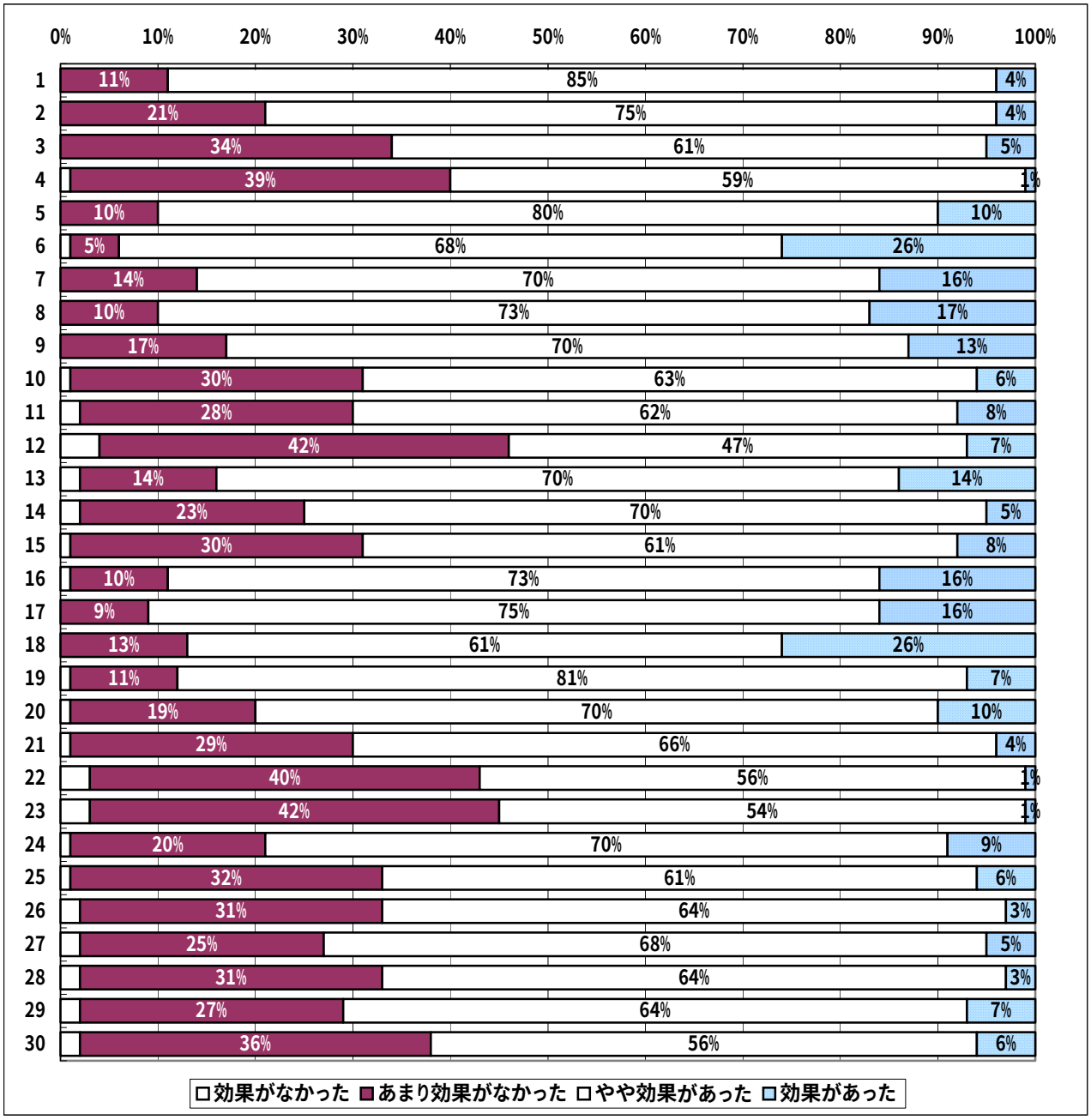


図 12　高等学校における指導効果

図 12 は、「指導効果」を小単元ごとに示したものである。

- 「（12）自己実現」、「(22）我が国の保健･医療制度」、「(23）地域の保健･医療機関の活用」は、それぞれ「効果がなかった」「あまり効果がなかった」を合わせて、46%･43%･45%となっている。
- 「（６）喫煙、飲酒と薬物」、「(17）日常的な応急手当」は、それぞれ「やや効果があった」「効果があった」を合わせて、94%･91%となっている。

d　高校学校における指導上の問題点

	小単元	興味難	知識定着	実生活	課題を持たせる	教材・教具	時間がかかる	指導法わからない	その他	問題感じない
現代社会と健康	(1) 国民の健康水準と疾病構造の変化	30%	17%	17%	13%	3%	3%	3%	0%	14%
	(2) 健康の考え方と成り立ち	32%	17%	17%	11%	3%	3%	4%	0%	13%
	(3) 健康にかかわる意思決定と行動選択	30%	15%	17%	14%	3%	2%	6%	0%	13%
	(4) 様々な健康活動や対策	35%	14%	22%	11%	2%	2%	3%	0%	11%
	(5) 生活習慣病と日常の生活行動	19%	20%	17%	13%	2%	4%	1%	0%	24%
	(6) 喫煙、飲酒と健康	10%	16%	16%	14%	4%	7%	1%	0%	32%
	(7) 医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康	13%	21%	19%	13%	4%	5%	2%	0%	23%
	(8) 感染症とその予防	16%	23%	18%	11%	2%	7%	2%	0%	21%
	(9) 欲求と適応規制	16%	24%	11%	12%	3%	5%	4%	0%	25%
	(10) 心身の相関	24%	20%	16%	11%	6%	3%	2%	0%	18%
	(11) ストレスへの対処	26%	15%	17%	12%	3%	4%	4%	0%	19%
	(12) 自己実現	31%	15%	15%	12%	4%	4%	4%	0%	15%
	(13) 交通事故の現状	16%	15%	11%	15%	7%	3%	4%	0%	29%
	(14) 交通社会で必要な資質と責任	17%	19%	16%	14%	7%	2%	4%	0%	21%
	(15) 安全な交通社会づくり	21%	19%	12%	14%	8%	2%	5%	0%	19%
	(16) 応急手当の意義	13%	23%	14%	11%	2%	7%	0%	1%	29%
	(17) 日常的な応急手当	11%	21%	14%	10%	0%	12%	1%	1%	30%
	(18) 心肺蘇生法	12%	20%	13%	7%	2%	18%	0%	2%	26%
生涯を通じる健康	(19) 思春期と健康	18%	15%	15%	14%	3%	6%	2%	0%	27%
	(20) 結婚生活と健康	18%	16%	16%	10%	5%	5%	1%	1%	28%
	(21) 加齢と健康	27%	14%	19%	11%	3%	4%	2%	1%	19%
	(22) 我が国の保健・医療制度	38%	19%	14%	12%	3%	2%	0%	0%	12%
	(23) 地域の保健・医療機関の活用	34%	17%	17%	13%	3%	1%	2%	0%	13%
社会生活と健康	(24) 環境の汚染と健康	20%	17%	12%	15%	2%	6%	1%	1%	26%
	(25) 環境と健康の対策	25%	15%	12%	16%	5%	2%	2%	0%	23%
	(26) 環境保健にかかわる活動	35%	16%	8%	14%	2%	5%	3%	0%	17%
	(27) 食品保健にかかわる活動	31%	15%	12%	5%	4%	4%	4%	0%	25%
	(28) 健康の保持増進のための環境と食品の保健	30%	14%	14%	11%	4%	1%	2%	0%	24%
	(29) 職業病や労働災害と健康	35%	13%	13%	12%	3%	0%	1%	0%	23%
	(30) 働く人の健康の保持増進	33%	14%	26%	10%	3%	0%	3%	0%	11%

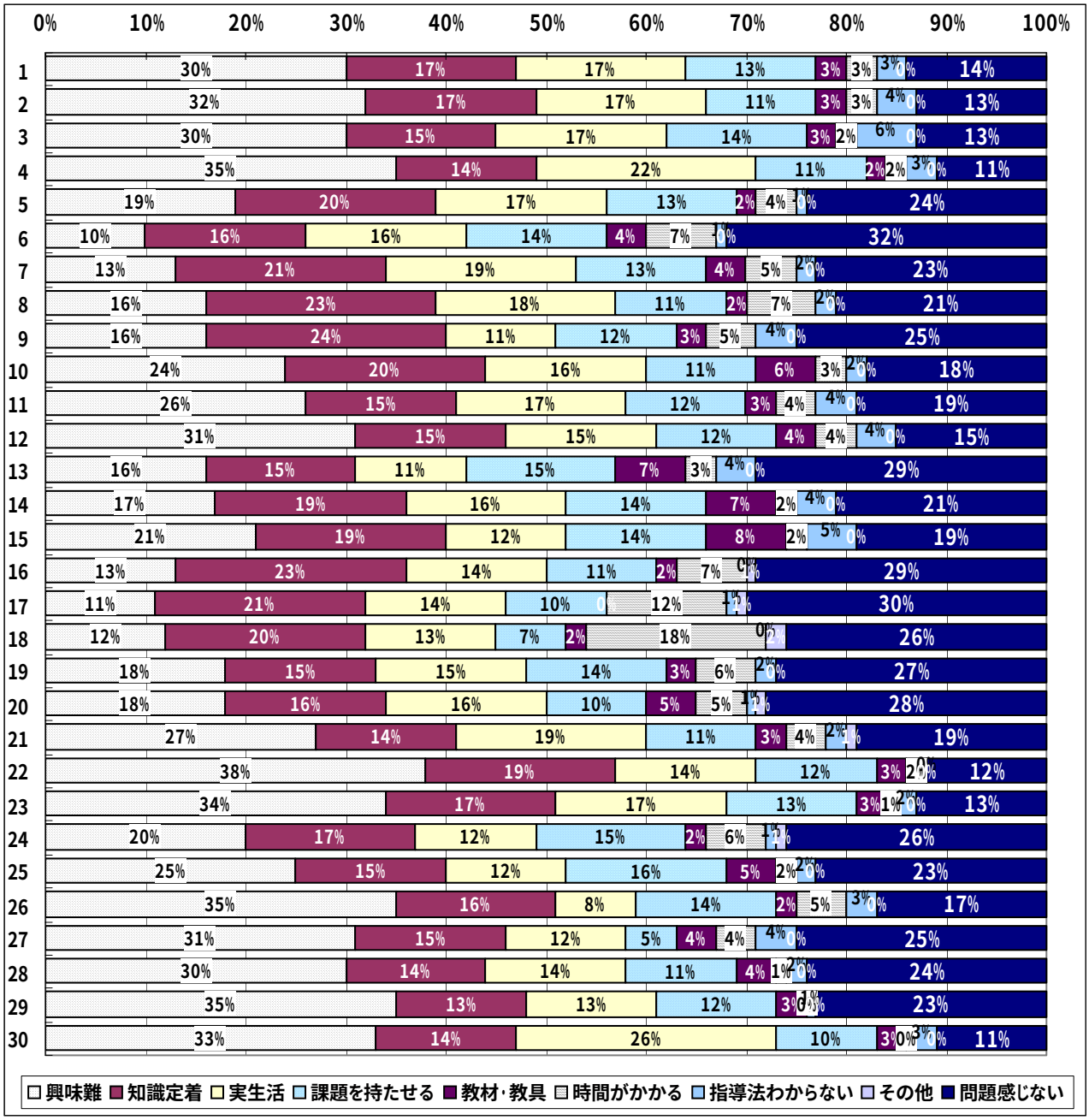


図 13　高等学校における指導上の問題点（複数回答）

図 13 は、「指導上の問題点」を小単元ごとに示したものである。

・「（１）国民の健康水準と疾病構造の変化」（39%）、「（２）健康の考え方と成り立ち」（32%）、「（３）健康にかかわる意思決定と行動選択」（30%）、「（４）様々な健康活動や対策」（35%）、「(12) 自己実現」（31%）、「(22) 我が国の保健･医療制度」（38%）、「(23) 地域の保健･医療機関の活用」（34%）、「(26) 環境保健にかかわる活動」（35%）、「(27) 食品保健にかかわる活動」（31%）、「(28) 健康の保持増進のための環境と食品の保健」(30%)、「(29) 職業病や労働災害と健康」(35%)、「(30) 働く人の健康の保持増進」（33%）は、「生徒に興味を持たせるのが難しい」と感じている。

・ 多くの項目で、「知識がなかなか定着しない」「実生活に結びつけるのが難しい」と感じている。
・ 「（７）医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康」（21%）、「（８）感染症とその予防」（23%）、「（９）欲求と適応規制」（24%）は、「知識がなかなか定着しない」と感じている。
・ 「（18）心肺蘇生法」（18%）は、「授業の準備に時間がかかる」と感じている。
・ 「（６）喫煙、飲酒と健康」（32%）、「（17）日常的な応急手当」（30%）は、「問題を感じない」と感じている。
・ 「（15）安全な交通社会づくり」は、様々な問題を感じている。

イ　校種ごとのアンケート調査の分析

（ア）小学校における分析

指導効果について「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した割合が高かった小単元のうち「(７)心の発達」と「(９)不安や悩みへの対処」の中から、「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」と「指導方法等」の内容を確認した。なお、回答は複数回答制である。

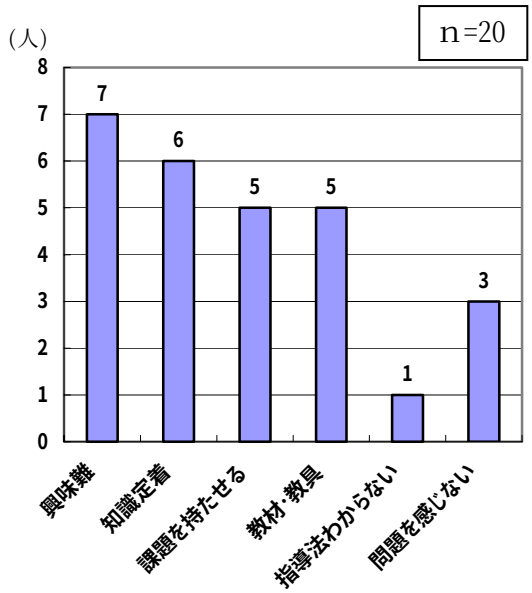


図 14　小学校の「心の発達」における指導上の問題点

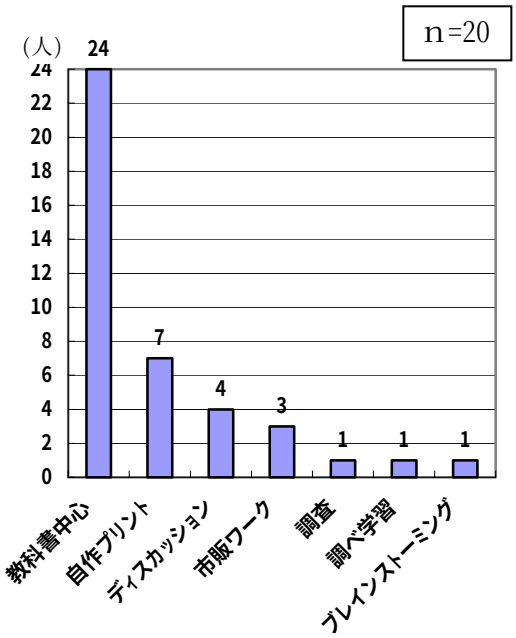


図 15　小学校の「心の発達」における指導方法等

図 14、図 15 は、小単元「(７)心の発達」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

これを見ると「指導上の問題点」では、「興味を持たせるのが難しい」が７人と最も多く、続いて「知識がなかなか定着しないが６人、「学習の課題を持たせるのが難しい」「有効な教材･教具の情報が得にくい」が５人となっている。「課題を感じない」が３人いる。

また、「指導方法等」は、「教科書中心」が 24 人で最も多く、他の手法はあまり使われていない。

心の問題は、目に見えないため、子どもたちに実感をもたせることが難しい。教科書中心の学習形態でなく、ディスカッションなどの参加型学習にする必要があると思われる。

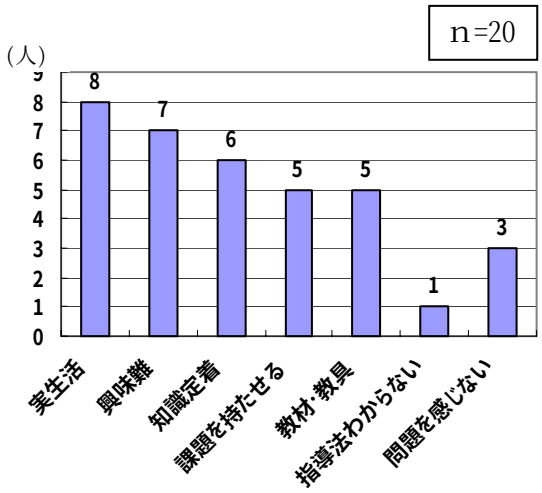


図 16　小学校の「不安や悩みへの対処」における指導上の問題点

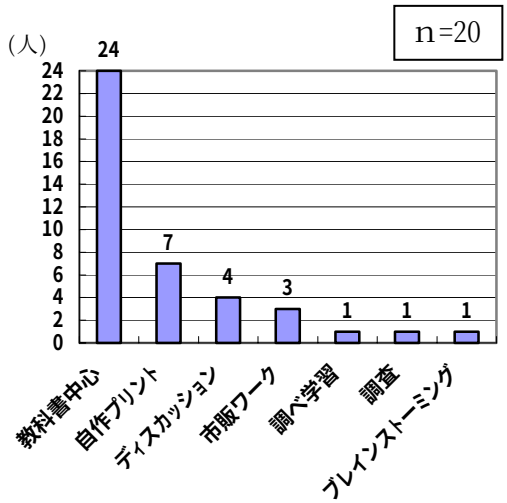


図 17　小学校の「不安や悩みへの対処」における指導方法等

図 16、図 17 は、小単元「(９) 不安や悩みへの対処」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

これを見ると「実生活に結びつけるのが難しい」が８人と最も多く、続いて「興味を持たせるのが難しい」が７人、「知識がなかなか定着しない」が６人、「学習の課題を持たせるのが難しい」「有効な教材･教具の情報が得にくい」が５人となっている。「課題を感じない」が３人いる。

また、「指導方法等」は、「教科書中心」が 24 人で最も多く、他の手法はあまり使われていない。

「(９)不安や悩みへの対処」も心に関する内容であり、実際に見えないものを小学生への指導は難しいが、体ほぐしの運動などと関連付け指導していく必要があると考える。

（イ）中学校における分析

指導効果について「あまり効果を感じない」「感じない」と回答した割合が高く、課題があると思われる小単元のうち「(４)自己形成」「(８)温度、湿度、明るさと至適範囲」について、「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」と「指導の方法等」の内容を確認した。なお、回答は複数回答製である。

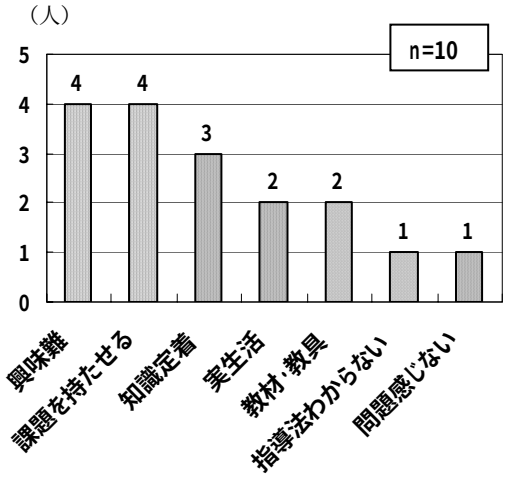


図 18　中学校の「自己形成」における指導上の問題点

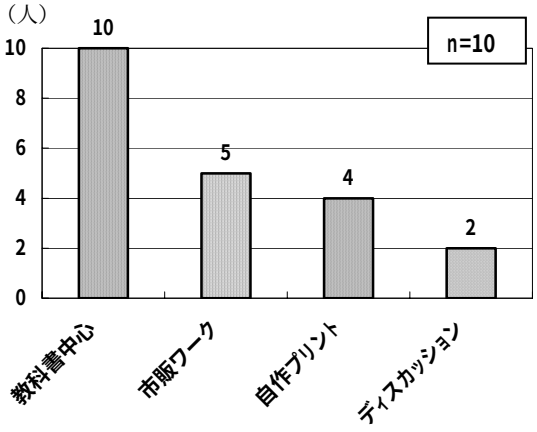


図 19　中学校の「自己形成」における指導方法等

図 18、図 19 は、小単元「(４)自己形成」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

「自己形成」の単元については、興味や課題を持たせることが難しく、知識がなかなか定着しないという回答が多い。指導方法等は教科書が中心であるが、市販ワークや自作プリント及びディスカッションを取り入れるなどの工夫も見られる。中学生になると、自己を客観的に見つめる力がついてくるため、自己形成について学習することは大切なことであるが、内面的なものが多く、ものごとを抽象的に捉えていく必要がある。また中学生の時期は、自分が見えてくると同時に自分を否定的に捉えがちになる。自分自身を冷静に見つめさせること、自己肯定感を高めていくための指導方法などの工夫が今後の課題と考えられる。

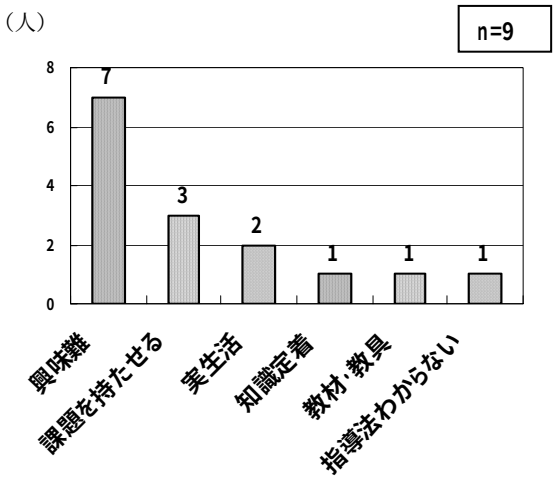


図２０　中学校の「温度、湿度、明るさと至適範囲」における指導上の問題点

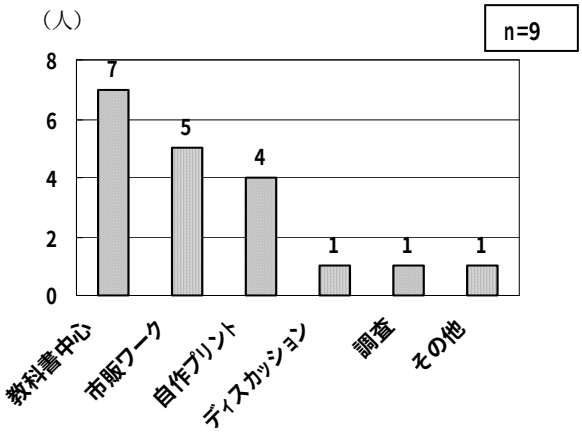


図２１　中学校の「温度、湿度、明るさと至適範囲」における指導方法等

図20、図21は、小単元「(８) 温度、湿度、明るさと至適範囲」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

「温度、湿度、明るさと至適範囲」の単元については、興味や課題を持たせることが難しく、実生活にどのように結びつけたらよいかが問題点としてあげられる。指導方法等はほぼ教科書が中心であるが、市販ワークや自作プリント等も活用されている。温度、湿度、明るさは生活に密着した内容である。しかし、興味･関心の高い生徒と全く興味の持てない生徒との二極化が考えられる。また、「理科や家庭科などで詳しく学習するため、簡単に内容を説明し、興味を持たせる工夫をしていなかった」という記述も見られた。温度計と湿度計を準備し不快指数を測定したり照度を測定したり、調査活動を授業の中に取り入れたりするなど、興味をもたせる工夫が必要である。

（ウ）高等学校における分析

指導効果について「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した割合が高く、課題があると思われる小単元のうち、「(12) 自己実現」「(23) 地域の保健･医療機関の活用」について、「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」と「指導方法等」の内容を確認した。なお、回答は複数回答制である。

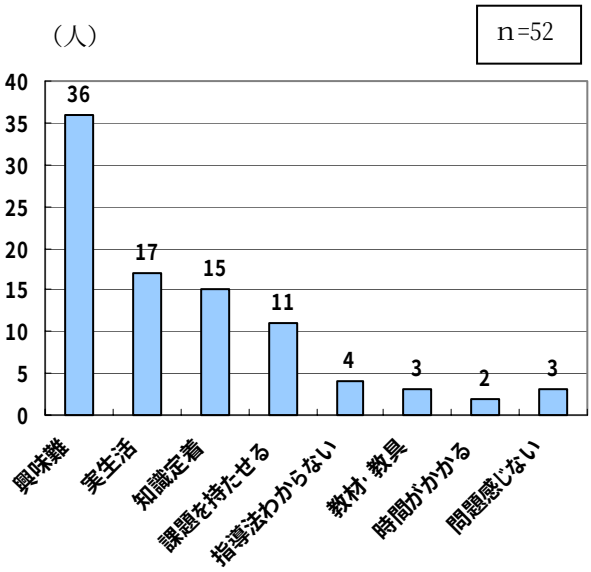


図 22　高等学校の「自己実現」における指導上の問題点

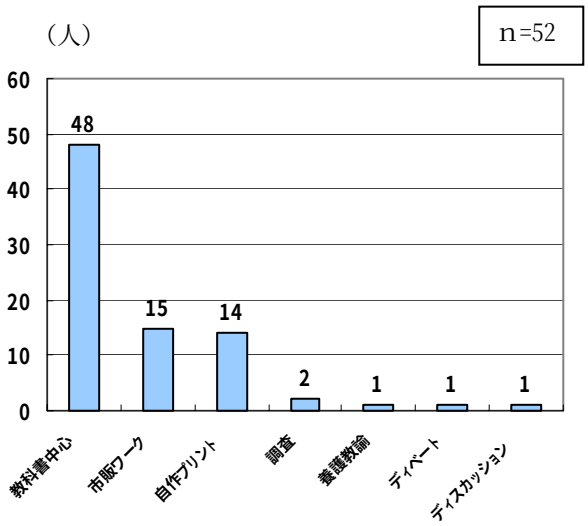


図 23　高等学校の「自己実現」における指導方法等

図 22、図 23 は、小単元「(12 自己実現」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

指導上の問題点では、「興味を持たせるのが難しい」が 36 人と最も多く、「実践生活に結びつけるのが難しい」が 17 人、「知識がなかなか定着しない」が 15 人と続いている。

指導方法は、「教科書を中心とした講義」が 48 人と最も多く、「市販のワークブックの使用」が 15 人、「自作プリントの使用」が 14 人と続いており、その他の手法はあまり用いられていないようである。

この結果をみると、「自己実現」は、生徒に興味や関心を持たせづらい学習内容であることが考えられる。また、教科書を中心とした講義形式の展開も、生徒の興味や関心を高められない原因となっていることが推察される。

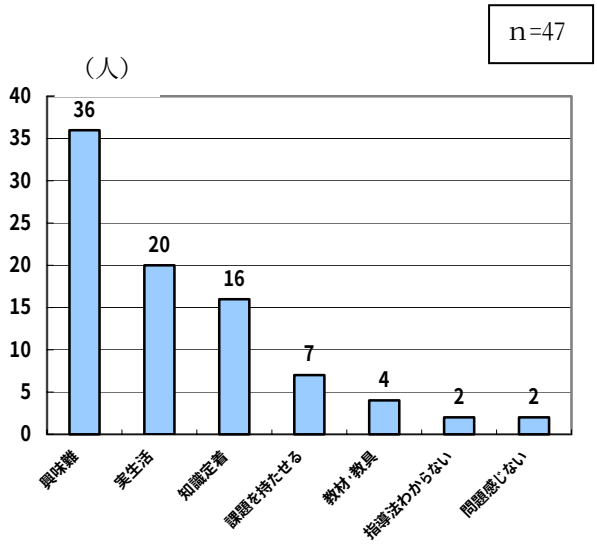


図 24　高等学校の「地域の保健・医療機関の活用」における指導上の問題点

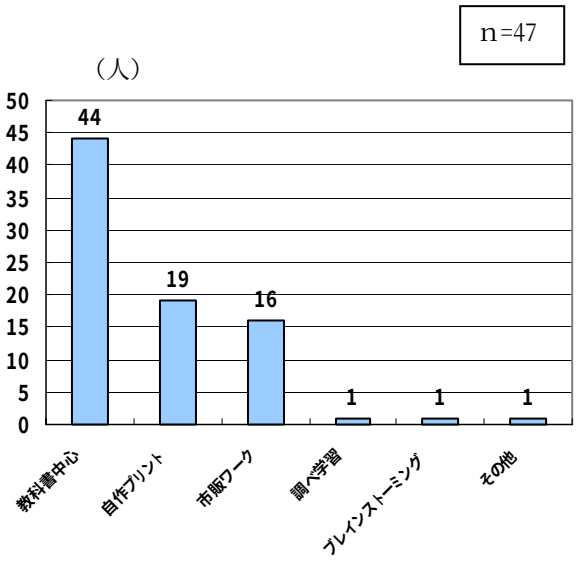


図 25　高等学校の「地域の保健・医療機関の活用」における指導上の問題点

図 24、図 25 は、小単元「(23)地域の保健･医療機関の活用」において「あまり効果を感じない」「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」「指導方法等」を示したものである。

指導上の問題点では、「興味を持たせるのが難しい」が 36 人と最も多く、「実生活に結びつけるのが難しい」が 20 人、「知識がなかなか定着しない」が 16 人と続いている。

指導方法は、「教科書を中心とした講義」が 44 人と最も多く、「自作プリントの使用」が 19 人、「市販のワークブックの使用」が 16 人と続いており、その他の手法はあまり用いられていないようである。

この結果をみると、「地域の保健･医療機関の活用」は、生徒に興味や関心を持たせづらい学習内容であることが考えられる。また、教科書を中心とした講義形式の展開も生徒の興味･関心を高められず、さらに参加型の学習もあまり行われていないため、実生活に結びつけらないのではないかと推察される。

ウ　系統性のある（小･中･高）小単元における課題の検討

小学校３年生から高等学校２年生までの９年間の保健学習では、関連のある学習内容を発達段階に応じて指導する単元がある。例えば、交通安全では、小学校は「交通事故や学校生活の事故と防止」、中学校は「交通事故による傷害の防止」、さらに高等学校は「交通社会で必要な資質と責任」の小単元で扱うことになっている。（Ｐ６参照）

そこで、今回実施したアンケートから、各校種の「交通安全」「応急手当」「ストレスへの対処」に係る小単元について取り上げ、結果の分析をした。

（ア）「交通安全」に係る小単元について

ａ　指導の方法等

複数回答

校　種	小　単　元	ブレインストーミング	ロールプレイング	ディベート	グループディスカッション	調査（実地・アンケート等）	調べ学習（文献・インターネット等）	外部講師等の活用	自作のプリントの使用	市販のワークブックの使用	教科書を中心とした講義	教諭と養護教諭とのＴＴ	その他	回答数
小学校	交通事故や学校生活の事故と防止	1	2	1	6	8	4	1	21	11	70	2	3	130
中学校	交通事故による傷害の防止	0	1	1	4	0	1	0	14	15	28	0	3	67
高等学校	交通社会で必要な資質と責任	2	2	1	3	1	4	1	44	35	96	1	1	191

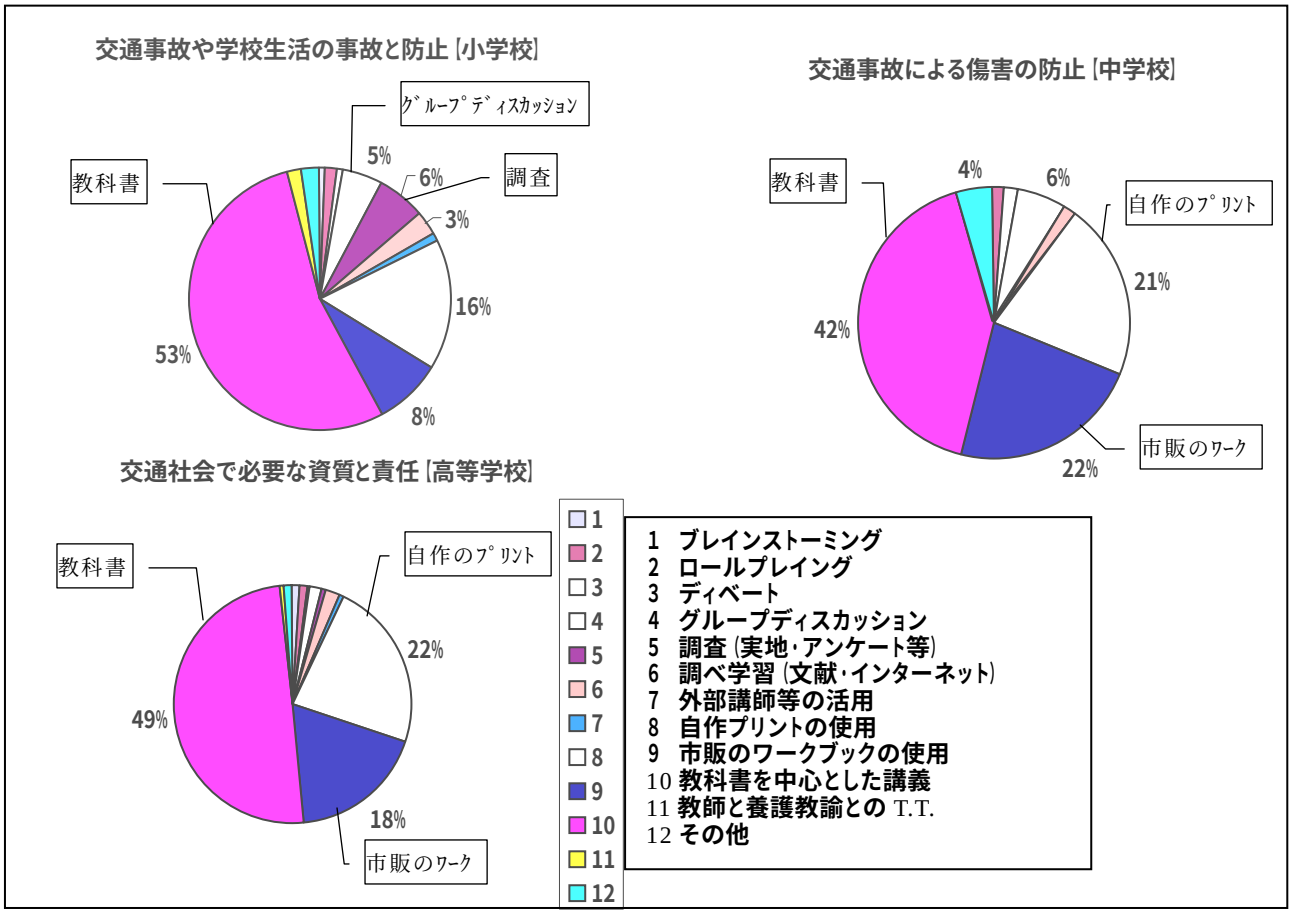


図 26　交通安全「指導の方法等」

図 26 は、交通安全に係る小単元の「指導方法」についての調査結果を示したものである。各校種ともに「教科書を中心とした講義」が 50%近くを占めており、次に、「自作のプリントを使用」や「市販のワークブックを使用」という回答が多くなっている。また、小学校では、「調査（実地･アンケート等）」や「グループディスカッション」を行っている学校もいくつか見られる。

b　指導効果

校　種	小　単　元	効果がなかった	あまり効果がなかった	まあまあ効果があった	効果があった	回答数
小学校	交通事故や学校生活の事故と防止	0	10	59	6	75
中学校	交通事故による傷害の防止	0	2	26	6	34
高等学校	交通社会で必要な資質と責任	2	25	75	6	108

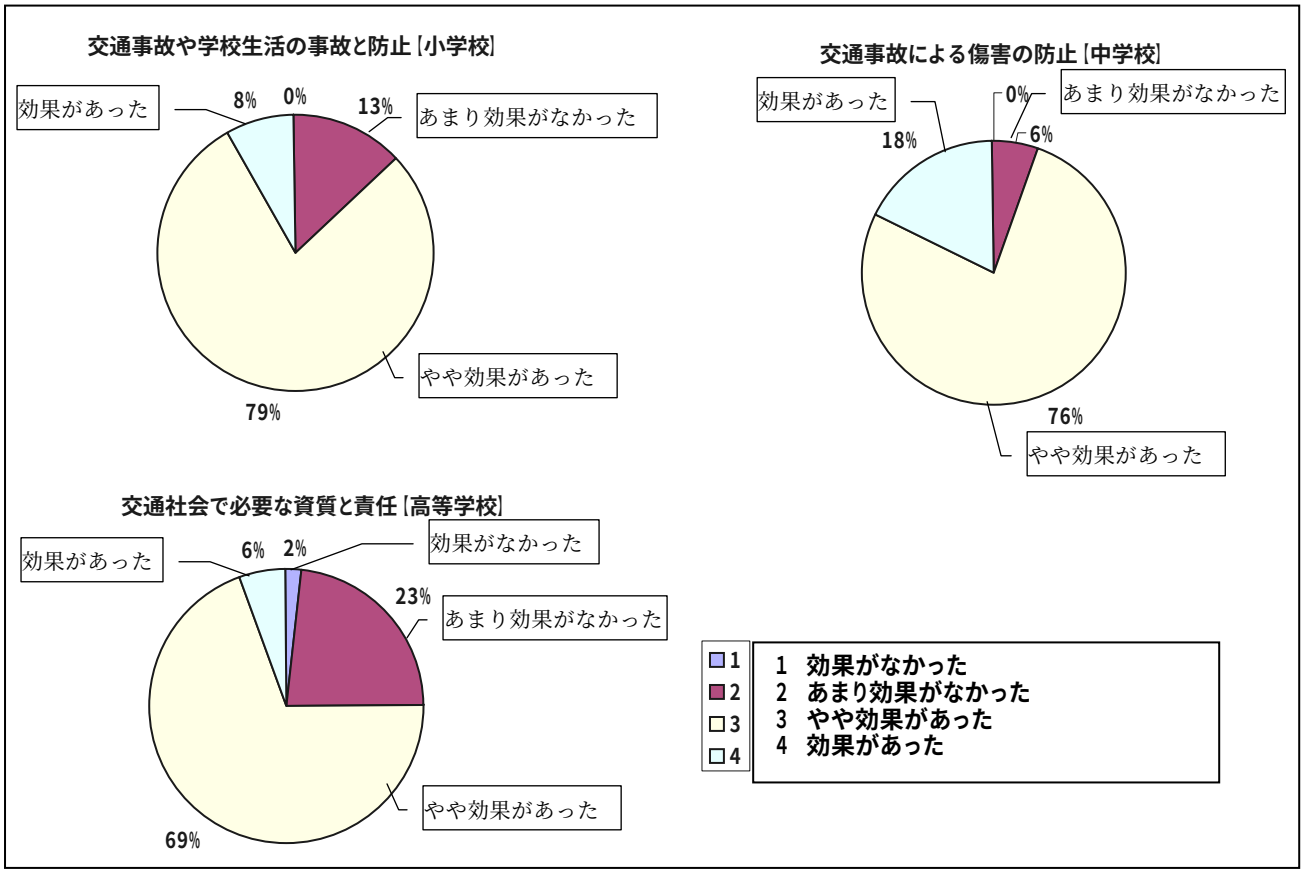


図 27　交通安全「指導効果」

図 27 は、交通安全に係る小単元の「指導効果」についての調査結果を示したものである。小学校･中学校では「効果があった」「やや効果があった」が 80%を越える回

答であったが、高等学校では 75%にとどまり、25%が「あまり効果がなかった」「効果がなかった」と回答している。

c　指導上の問題点

複数回答

校　種	小　単　元	生徒に興味を持たせるのが難しい	知識がなかなか定着しない	実生活に結びつけるのが難しい	学習の課題を持たせるのが難しい	有効な教材・教具の情報が得にくい	授業の準備に時間がかかる	効果的な指導方法がわからない	その他	問題を感じない	回答数
小学校	交通事故や学校生活の事故と防止	9	16	29	8	11	4	9	0	8	94
中学校	交通事故による傷害の防止	9	6	7	5	2	0	0	0	15	44
高等学校	交通社会で必要な資質と責任	24	26	22	20	10	2	6	0	30	140

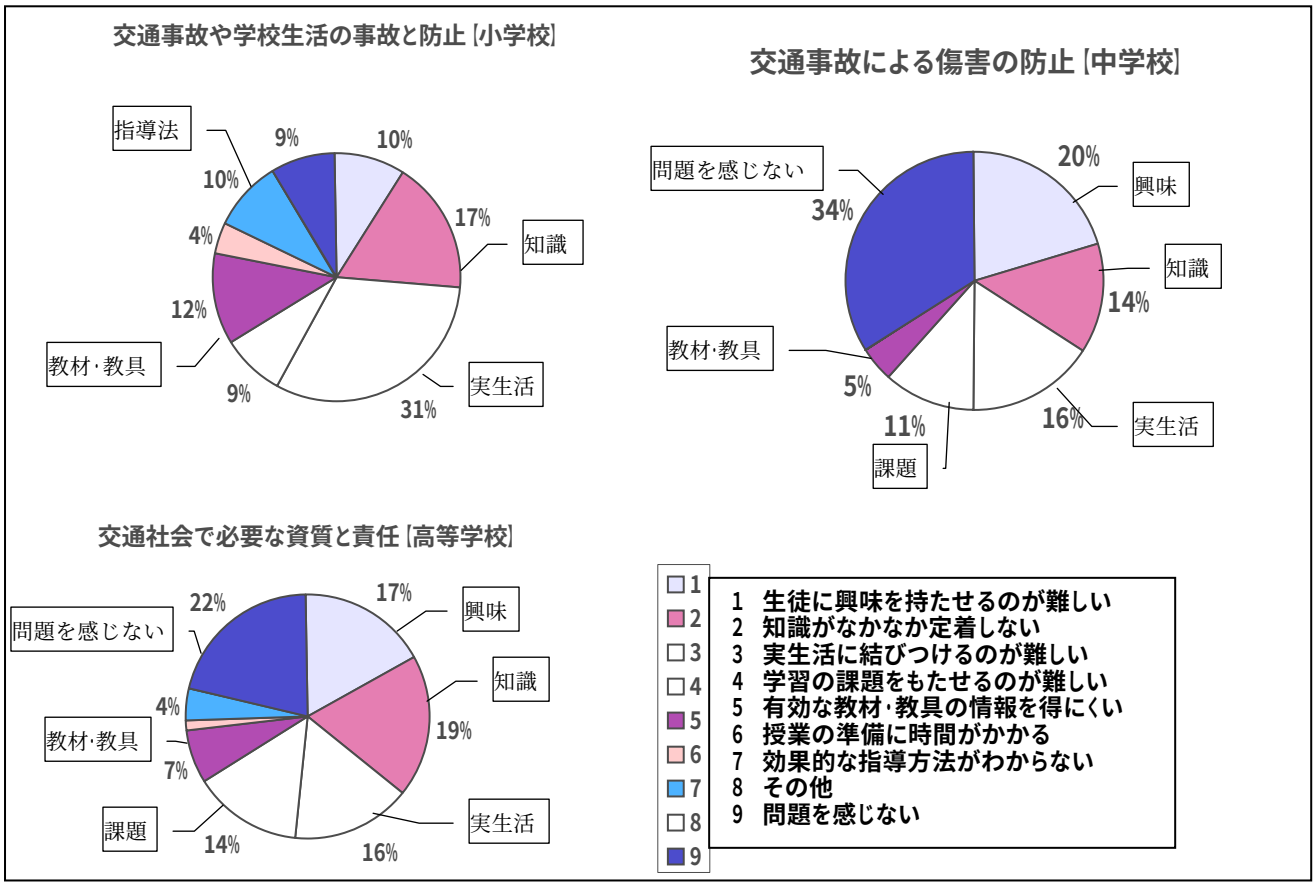


図 28　交通安全「指導上の問題点」

図 28 は、交通安全に係る小単元の「指導上の問題点」についての調査結果を示したものである。小学校では「実生活に結びつけるのが難しい」が最も多く、次いで「知

識がなかなか定着しない」「有効な教材･教具の情報が得にくい」となっている。中学校では「問題を感じない」が最も多いが、「生徒に興味を持たせるのが難しい」という回答も多くなっている。高等学校では「問題を感じない」が多いが、それ以外にも「知識がなかなか定着しない」「生徒に興味を持たせるのが難しい」など、様々な問題を感じていることがうかがえる。

また、アンケートから次のような記述があり、様々な指導方法の工夫が見られる。

○学校生活の事故については、何故学校のルールがあるのか（廊下を走らないなど）を考えさせ、事故に目を向けさせるように工夫している。
○保健室より、保健記録の資料を活用した。
○防災マップづくりを総合的な学習の時間に行った。
○交通安全に対する生徒の意識向上のため、生徒指導部を中心としてビデオや講師の講話による交通安全学習をＬＨＲ、総合学習の時間に行い、保健学習との関連をもたせて実施している。
○高校生大会(交通安全)の資料を参考に授業を行った。

（イ）「応急手当」に係る小単元について

ａ　指導の方法等

複数回答

校種	小単元	ブレインストーミング	ロールプレイング	ディベート	グループディスカッション	調査（実地・アンケート等）	調べ学習（文献・インターネット等）	外部講師等の活用	自作のプリントの使用	市販のワークブックの使用	教科書を中心とした講義	教諭と養護教諭とのＴＴ	その他	回答数
小学校	けがの手当て	0	3	0	6	5	4	0	23	13	63	8	4	129
中学校	応急手当の意義	0	0	0	0	0	1	0	13	14	28	1	8	65
	応急手当の方法	0	2	1	2	4	2	0	12	10	21	1	19	74
高等学校	応急手当の意義	1	1	1	1	2	1	0	56	39	93	1	9	205
	日常的な応急手当	1	1	1	1	3	5	0	58	38	83	1	20	212
	心肺蘇生法	1	2	2	2	2	3	4	55	34	75	3	53	236

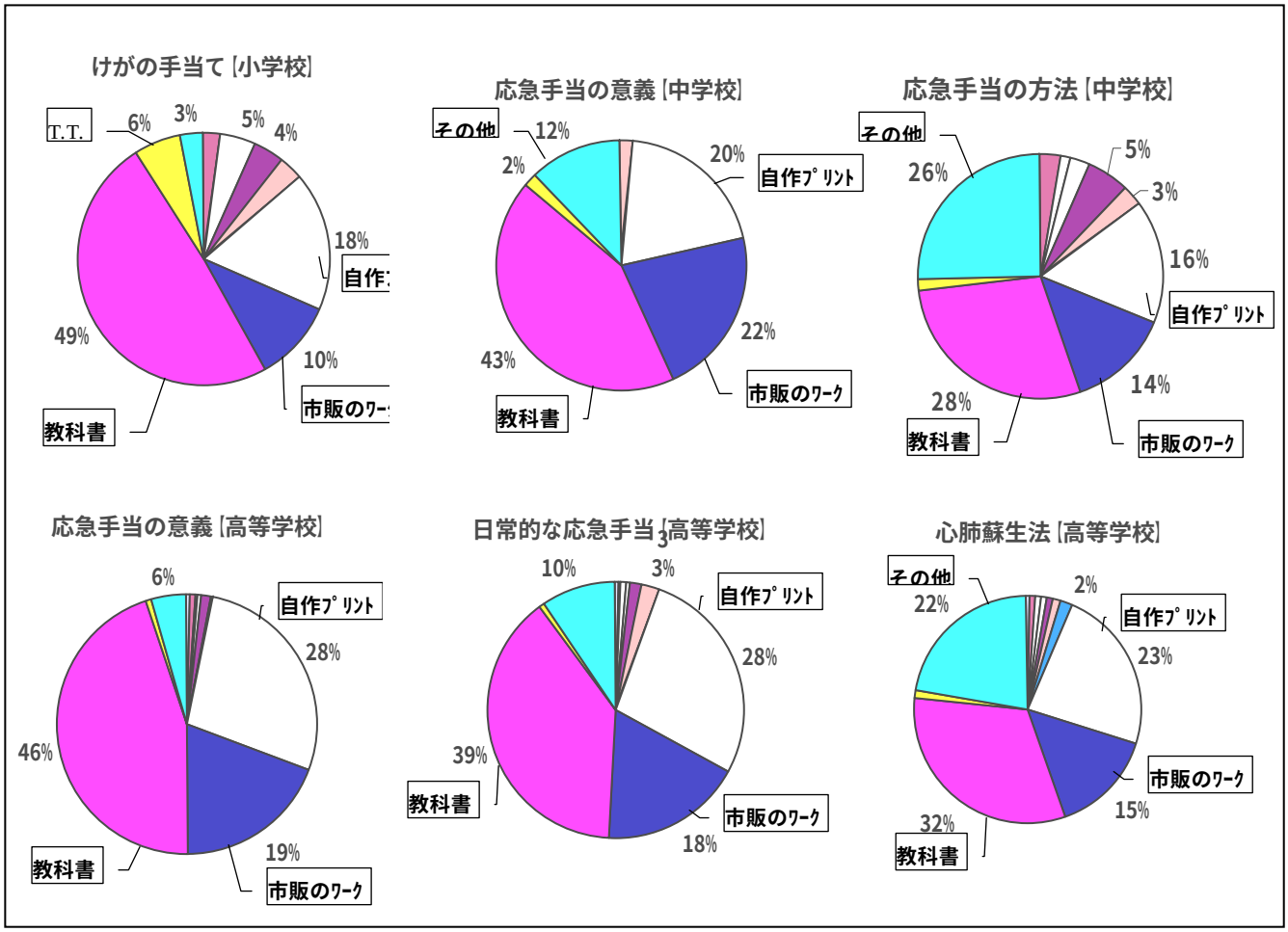


図 29　応急手当「指導の方法等」

図 29 は、応急手当に係る小単元の「指導方法」についての調査結果を示したものである。小学校、中学校、高等学校ともに「教科書を中心とした講義」が最も多いが、小学校の「けがの手当て」では、「養護教諭との T.T.」という回答も多い。また、中学校の「応急手当の方法」や高等学校の「心肺蘇生法」では、「その他」という回答が多いが、その内容としては実習を取り入れているという記述が多かった。

b　指導の効果

校　種	小　単　元	効果がなかった	あまり効果がなかった	まあまあ効果があった	効果があった	回答数
小学校	けがの手当て	0	9	59	7	75
中学校	応急手当の意義	0	2	25	9	36
	応急手当の方法	0	1	19	14	34
高等学校	応急手当の意義	1	11	83	18	113
	日常的な応急手当	0	10	82	17	109
	心肺蘇生法	0	14	66	28	108

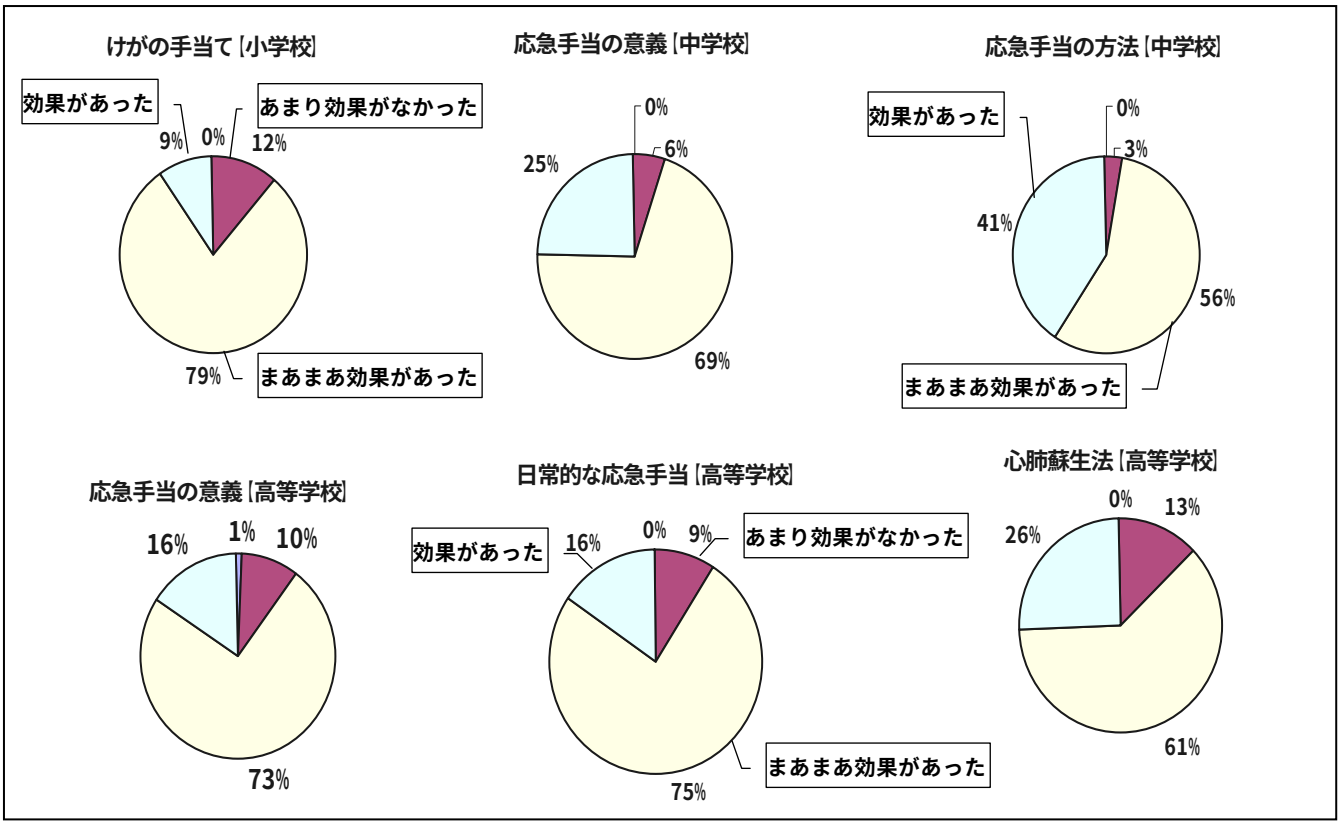


図 30　応急手当「指導効果」

図 30 は、応急手当に係る小単元の「指導効果」についての調査結果を示したものである。小学校、中学校、高等学校の各単元ともに、「まあまあ効果があった」という回答が最も多い。小学校や高等学校では「あまり効果がなかった」という回答が 10%前後となっているが、中学校の「応急手当の方法」、高等学校の「心肺蘇生法」では「効果があった」という回答が多くなっている。

c　指導上の問題点

複数回答

校　種	小　単　元	生徒に興味を持たせるのが難しい	知識がなかなか定着しない	実生活に結びつけるのが難しい	学習の課題を持たせるのが難しい	有効な教材・教具の情報が得にくい	授業の準備に時間がかかる	効果的な指導方法がわからない	その他	問題を感じない	回答数
小学校	けがの手当	12	13	20	9	10	6	5	0	19	94
中学校	応急手当の意義	2	5	6	2	1	2	0	0	18	36
	応急手当の方法	2	4	8	1	2	3	0	0	18	38
高等学校	応急手当の意義	18	33	20	15	2	10	1	2	40	141
	日常的な応急手当	14	28	19	12	0	15	2	2	39	131
	心肺蘇生法	16	27	18	10	2	24	0	3	35	135

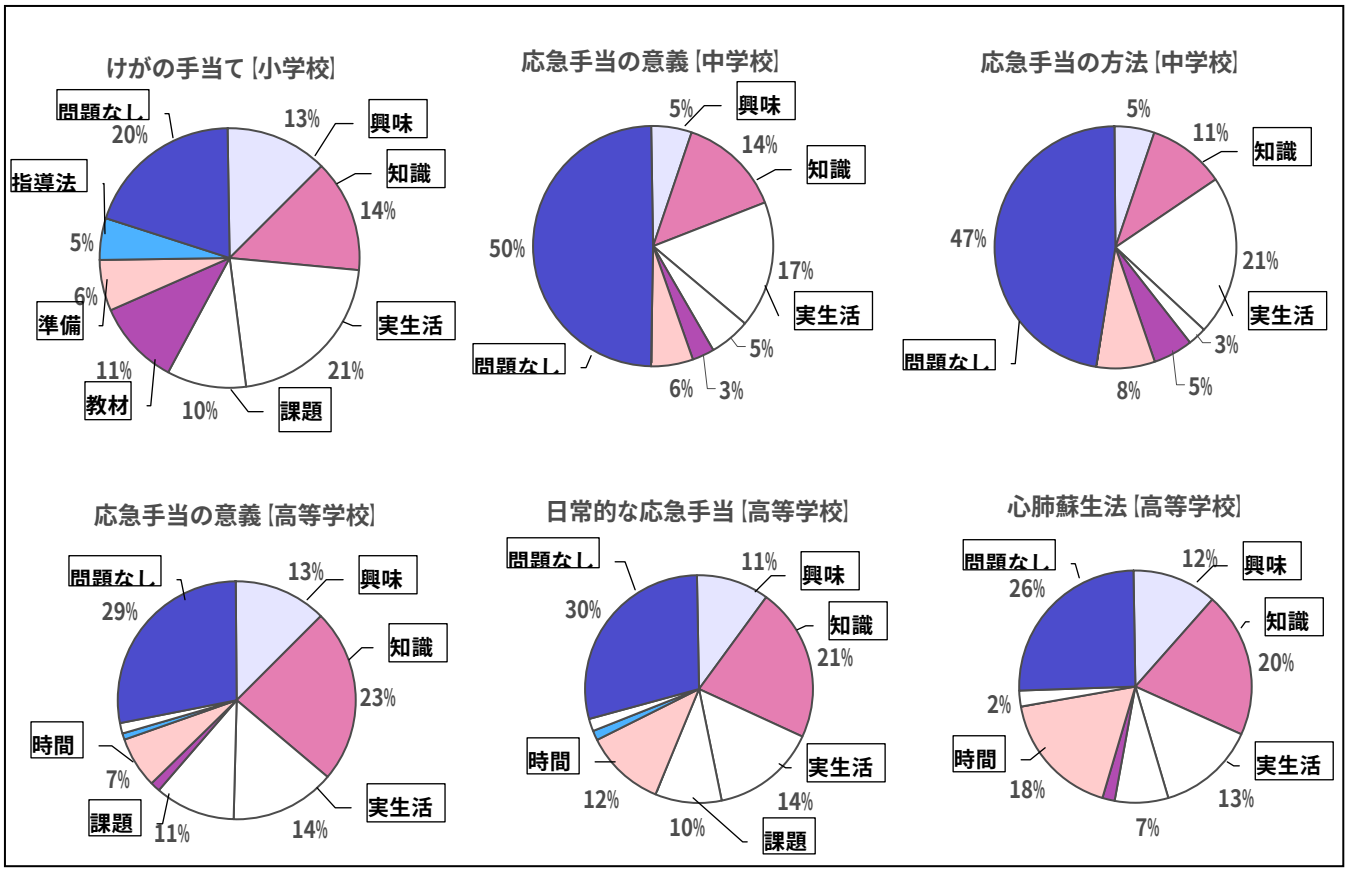


図 31　応急手当「指導上の問題点」

図 31 は、応急手当に係る小単元の「指導上の問題点」についての調査結果を示したものである。小学校では「実生活に結びつけるのが難しい」が最も多く、中学校、高等学校では「問題を感じない」が最も多かった。それ以外にも、「生徒に興味を持たせるのが難しい」、「知識がなかなか定着しない」、「実生活に結びつけるのが難しい」などの回答も多く、様々な指導上の課題があることがうかがえる。

また、アンケートから次のような記述があり、様々な指導方法の工夫が見られる。

○けがの手当てについては、友達同士で実演させることで、興味をもたせられた。
○実際の手当ての方法を養教に示してもらいながら学習を進めた。
○この単元は具体例もたくさんあり、非常にやり安い。応急手当はもっと内容を楽しく、時間をかけてもよいと思う。教科書は内容が薄い。
○地域と連携して心肺蘇生法を行っている。
○ビデオを使って心肺蘇生法の指導や、ダミーを使って実技をさせている。

（ウ）「ストレスへの対処」に係る小単元について

ａ　指導の方法等

複数回答

校　種	小　単　元	ブレインストーミング	ロールプレイング	ディベート	グループディスカッション	調査（実地・アンケート等）	調べ学習（文献・インターネット等）	外部講師等の活用	自作のプリントの使用	市販のワークブックの使用	教科書を中心とした講義	教諭と養護教諭とのＴＴ	その他	回答数
小学校	不安や悩みへの対処	4	2	0	11	3	1	0	20	8	59	2	1	111
中学校	欲求やストレスへの対処	1	2	0	5	0	0	0	14	13	27	0	1	63
高等学校	ストレスへの対処	3	0	1	7	4	1	0	53	39	106	1	3	218

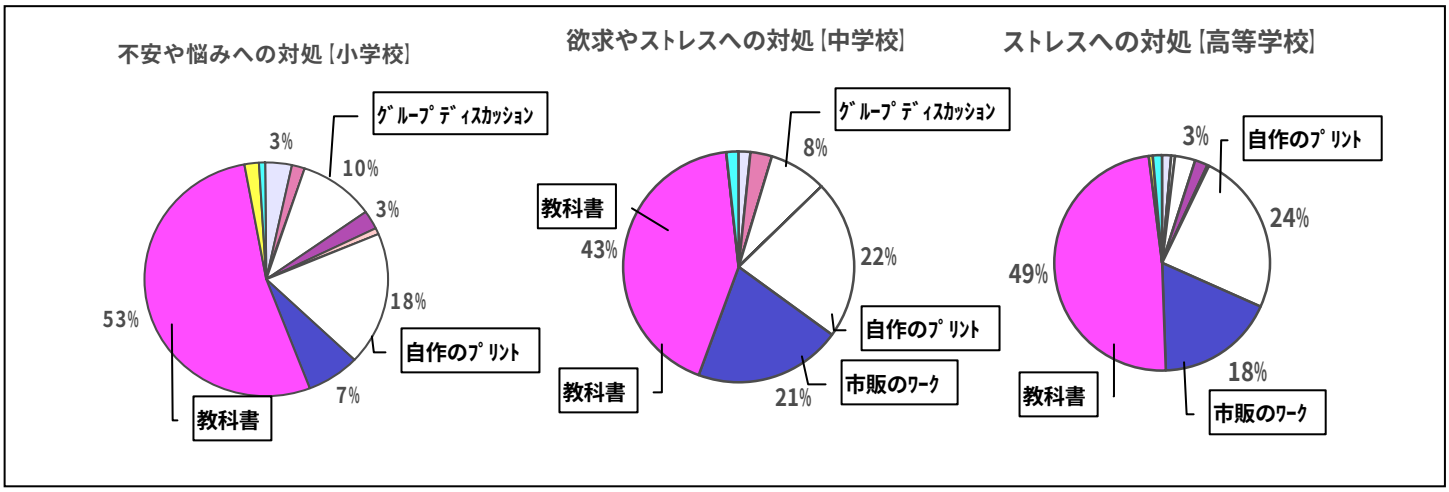


図 32　ストレスへの対処「指導の方法等」

図 32 は、ストレスへの対処に係る小単元の「指導の方法等」についての調査結果を示したものである。小学校、中学校、高等学校ともに「教科書を中心とした講義」が最も多い回答であるが、「自作のプリントの使用」「市販のワークブックの使用」なども多くの回答がある。また、小学校、中学校では「グループディスカッション」という回答が10%近くとなっており、指導方法の工夫がうかがえる。

b　指導の効果

校　種	小　単　元	効果がなかった	あまり効果がなかった	まあまあ効果があった	効果があった	回答数
小学校	不安や悩みへの対処	2	18	40	4	64
中学校	欲求やストレスへの対処	0	3	24	4	31
高等学校	ストレスへの対処	2	33	74	10	119

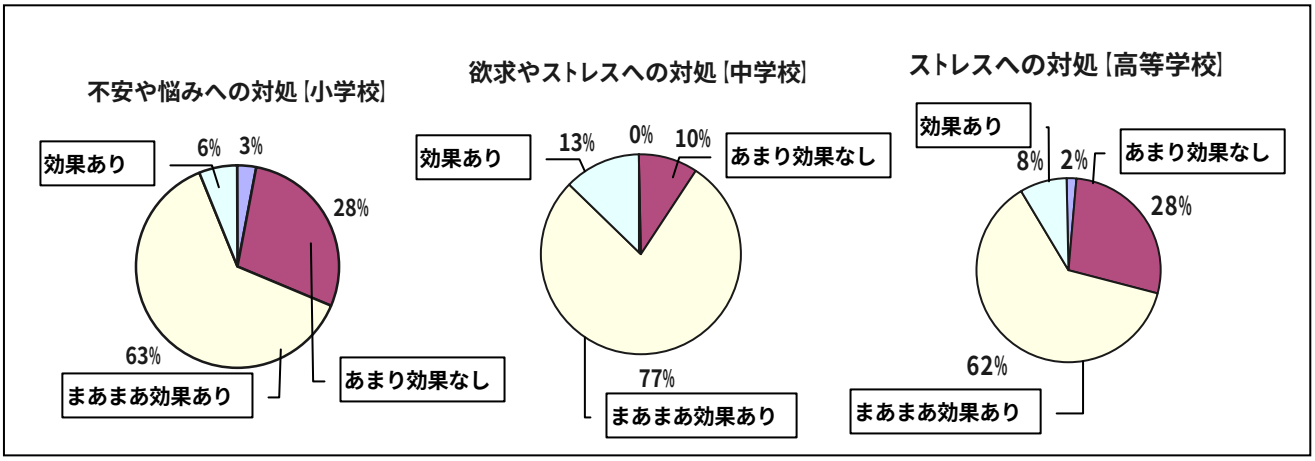


図 33　ストレスへの対処「指導効果」

図 33 は、ストレスへの対処に係る小単元の「指導効果」についての調査結果を示したものである。小学校、中学校、高等学校ともに、「まあまあ効果があった」という回答が最も多く、中学校では「効果があった」という回答と合わせると 90%になる。小学校、高等学校では「効果がなかった」「あまり効果がなかった」という回答が 30%以上となっている。

c　指導上の問題点

複数回答

校　種	小　単　元	生徒に興味を持たせるのが難しい	知識がなかなか定着しない	実生活に結びつけるのが難しい	学習の課題を持たせるのが難しい	有効な教材・教具の情報が得にくい	授業の準備に時間がかかる	効果的な指導方法がわからない	その他	問題を感じない	回答数
小学校	不安や悩みへの対処	9	10	21	10	14	2	2	0	10	78
中学校	欲求やストレスへの対処	3	7	7	6	3	1	2	0	9	38
高等学校	ストレスへの対処	41	25	27	18	6	5	7	1	30	160

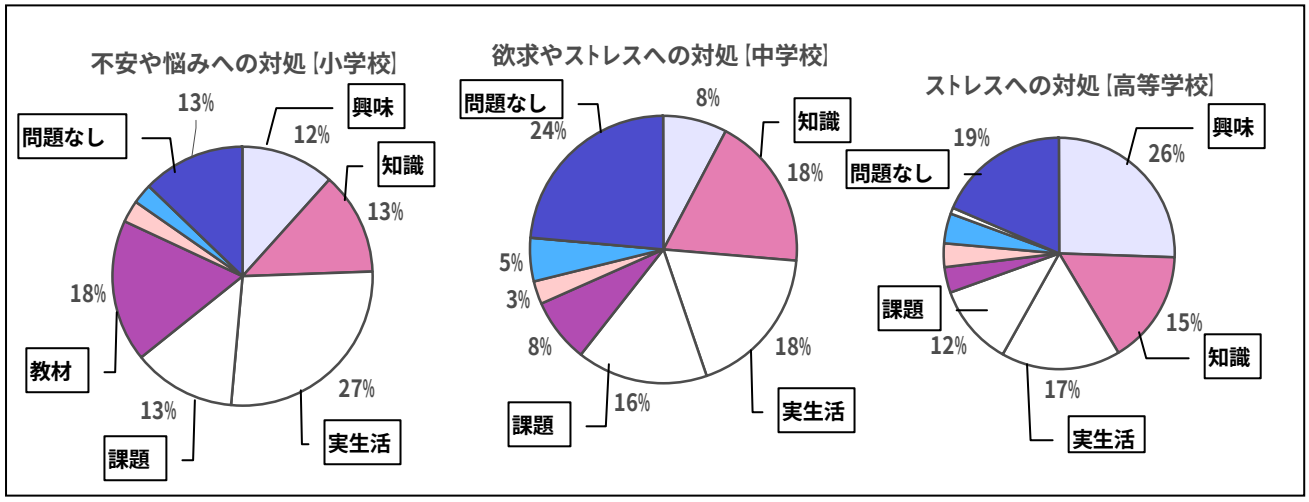


図 34　ストレスへの対処「指導上の問題点」

図 34 は、ストレスへの対処に係る小単元の「指導上の問題点」についての調査結果を示したものである。中学校では「問題を感じない」が最も多い回答となっているが、小学校では「実生活に結びつけるのが難しい」、高等学校では「生徒に興味を持たせるのが難しい」が最も多い回答となっている。その他、各校種とも「知識がなかなか定着しない」「学習の課題をもたせるのが難しい」「有効な教材･教具の情報が得にくい」など、様々な指導上の課題があることがうかがえる。

また、アンケートから次のような記述があり、様々な指導方法の工夫が見られる。

○不安や悩みを話したりするのに、学校ボランティア相談員がいることを紹介し、勧めた。
○「心の健康」では、誰にでも現れることとして、養護教諭とのＴＴ形式は有効であった。
○ロールプレイや事前アンケートの活用が効果的であったように思う。
○学活の時間との連携を図っている。指導案は養護教諭と協力をして作成、学級活動での授業は担任または養護教諭が行っている。
○生徒は概念的な話はあまり関心を示さないが、具体的な事例には反応が大きいので、そちらに重点を置いて進めている。

5　今後の方向性について

（1）アンケート調査のまとめ

ア　各校種の指導の現状

(ア)　小学校

○全ての学習において教科書を中心とした講義形式が多く、自作プリントの使用も見られる。
○養護教諭とのＴＴは「思春期の変化」で多く行われている。ディスカッションは「不安や悩み」で多く行われている。
○指導の効果について「あまり効果がなかった」「効果がなかった」という回答が多かった小単元は「不安や悩みへの対処」「心の健康」である。
○指導上の問題点は、どの単元においても「実生活に結びつけるのが難しい」と回答した割合が高い。

(イ)　中学校

○全ての学習において、教科書を中心とした講義形式が多く、ついで自作プリント･市販のワークの使用が多い。
○「心身の調和と心の健康」では、ロールプレイングやディスカッションなどの参加型の学習を用いているという回答が若干見られる。
○「喫煙と健康」「飲酒と健康」については、「効果があった」「やや効果があった」と全員が答えた。
○指導上の問題点については、他の校種と比べて「問題を感じない」との回答の割合が高く、問題となる項目は小単元において多岐にわたっている。

(ウ)　高等学校

○全ての学習において、教科書を中心とした講義形式が多く、自作プリントや市販のワークも使われている。参加型の手法はあまり行われていない。
○指導の効果では「自己実現」「我が国の保健･医療制度」「地域の保健･医療機関の活用」において、他の小単元より「あまり効果がなかった」「効果がなかった」と回答している割合が高い。
○指導上の問題点は、どの小単元においても「興味を持たせるのが難しい」「知識の定着が難しい」「実生活に結びつけるのが難しい」と回答している。

イ「あまり効果がなかった」「効果がなかった」と回答した割合が高い小単元の指導実態

(ア)　小学校

「心の発達」：○「（あまり）効果がなかった」と回答した教員の「指導上の問題点」の回答は「興味を持たせるのが難しい」「知識の定着が難しい」と回答した割合が高い。
○指導の方法は、教科書中心の割合が高い。

「不安や悩みへの対処」：
○「（あまり）効果がなかった」と回答した教員の問題意識は「実生活に結びつける」「興味を持たせるのが難しい」と回答した割合が高い。
○指導の方法は、教科書中心と答えた割合が高い。

(イ)　中学校

「自己形成」：○「（あまり）効果がなかった」と回答した教員の「指導上の問題点」は、「興味を持たせるのが難しい」「課題を持たせることが難しい」と回答した割合が高い。
○指導の方法は「教科書中心」と回答した割合が高く、市販のワークも使われている。

「温度、湿度、明るさと至適範囲」：
○「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」は、「興味を持たせることが難しい」と回答した割合が高い。
○指導の方法は「教科書中心」と回答した割合が高く、市販のワークや自作プリントも使われている。

(ウ)　高等学校

「自己実現」：○「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」は、「興味を持たせるのが難しい」と答えた割合が高い。
○指導の方法は教科書中心と回答した割合が高い。

「地域の保健･医療機関の活用」：
○「効果を感じない」と回答した教員の「指導上の問題点」は、「興味を持たせることが難しい」「実生活に結びつけることが難しい」と回答した割合が高い。
○指導の方法は「教科書中心」と回答した割合が高く、自作プリントも使われている。

ウ　系統性のある（小・中・高）小単元の指導の実態について

(ア)「交通安全」

○指導方法については各校種「教科書を中心とした講義」と回答した割合が高い。
○指導の効果については「効果があった」「やや効果があった」と答えた割合が高いが、小･中学校に比べ、「あまり効果がなかった」と答えた割合が高くなっている。
○指導上の問題点は、小学校では「実生活につなげることが難しい」、中学校では「興味を持たせるのが難しい」、高等学校では「知識の定着が難しい」と回答した割合が高い。また中学校では「問題を感じない」という回答の割合も高い。

(イ)「応急手当」

○指導方法については、各校種「教科書を中心とした講義と回答した割合が高いが、小学校の「けがの手当て」では「養護教諭とのＴＴ」と回答した割合が高かった。
○指導の効果については、校種が上がるほど「効果があった」「とても効果があった」との回答の割合が高くなり、「指導上の問題点」の回答の割合は低くなっている。
○「指導上の問題点」は、小学校･中学校･高校ともに「実生活に結びつけることが難しい」と回答した割合が高い。

(エ)「ストレスへの対処」

○指導方法は、各校種ともに自作プリントがよく使われている。
○指導上の問題点は、小学校は「実生活に結びつけるのが難しい」中学校は「実生活に結びつけるのが難しい」「知識を定着させるのが難しい」「課題を持たせるのが難しい」がそれぞれ回答の割合が高く、高校では「興味を持たせるのが難しい」と回答した割合が高い。
○指導上の問題点は、小学校では「実生活に結びつけるのが難しい」、中学校では「問題を感じない」、高等学校では「興味を持たせるのが難しい」の回答した割合が高かった。

（2）次年度に向けて

今回実施したアンケート調査で、各校種の保健学習を担当している教員の各小単元ごとの「指導時数」と「指導の方法」の実態、そして「指導効果」と「指導上の問題点」の意識が明らかになった。特に指導上の問題点として、「実生活に結びつけるのが難しい」「生徒に興味をもたせるのが難しい」「知識がなかなか定着しない」など、具体的な意識が明らかになったことは指導資料を作成する上で重要なデータなると思われる。

次年度、9 年間を見通した保健学習の指導資料を作成していくためには、今あるデータを深く分析し、指導上の課題を浮き彫りにする必要がある。また、自由記述の部分（保健学習全般についての問題点）では、次のような様々な意見が書かれており、これらの貴重な意見を十分検討していく必要がある。

·年間の授業時数が少なく、どうしても単発的な授業になりがちである。インフルエンザの流行時期に合わせて、年間計画を立てると効率が上がるのではないか。（小学校）

·生徒に興味関心を持たせるのが難しい。生徒の中に「保健＝おもしろくない」の意識がある。
·意欲を高めるような指導法の工夫をしていくこと。例えば参加型、課題解決学習などを積極的に取り入れていく必要がある。（中学校）

·なかなか生徒が主体的に取り組む場面を作れず、どうしても一方的な講義になってしまう。喫煙や飲酒、性に関することなど、もっと反応があってほしいと思っても他人事のように聞いている感じなので、いかに生徒の興味関心を引き出し乗せることができるのか課題である。
·ブレインストーミングやロールプレイング等を実施すると生徒が講義形式より興味を示して授業に取り組めた。しかし、準備に時間がかかり、単元(他の)の時間配当が困難となるので、指導内容を精選できたら、もっと生徒が生き生きと取り組める授業展開ができるのではないかと思う。（高等学校）

（アンケートより一部抜粋）

合わせて、今求められている 9 年間を見通した学習を展開するために必要な情報を、様々な資料·文献をもとにあらためて整理しなおし、保健学習の指導に携わる教員にとって使いやすく分かりやすい内容を検討していく必要がある。

このような取り組みにより、次年度、児童生徒が興味·関心を持ち、実生活とのつながりを意識していけるような学習展開を考え、それぞれの内容に応じた指導方法の工夫、指導計画、評価計画を作成する際に参考となる保健学習の指導資料を作成していきたいと考える。

[引用·参考文献]

1) 文部科学省　「保健体育審議会答申」平成 9 年 9 月
2) 文部科学省　小学校·中学校·高等学校「学習指導要領解説　総則偏」平成　10 年 12 月、平成 11 年 12 月
3) 文部科学省　小学校·中学校·高等学校「学習指導要領解説ー体育偏·保健体育偏ー」平成　11 年 5 月· 12 月
4) 戸田　芳雄　「保健（保健領域、保健分野、科目保健）の指導と評価」平成 16 年 6 月
5) 財）日本学校保健会「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」平成 13 年 9 月
6) 神奈川県立体育センター中学校初任者研修資料　平成 17 年 6 月
7) 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法の工夫·改善のための参考資料」平成　16 年 3 月
8) 神奈川県立体育センター研修指導室「高等学校保健体育　学習評価ハンドブック」平成 17 年 3 月
9) 静岡県校長会「静岡県評価規準モデル」14 年 3 月